

東京工科大学報 64



東京工科大学報 64

- 03 学長メッセージ 東京工科大学 30年の歩み
東京工科大学創立 30周年記念公開講座のご案内
- 04 KOUKADAI TOPICS 東京工科大学公式キャラクター「こうかとん」が誕生しました！
第7回大学コンソーシアム八王子学生発表会にて表彰される
昭和第一学園高等学校との連携協定を締結
八王子市との包括連携協定を締結
東京工科大学同窓会奨学金授与式を実施
- 06 Campus Scenes 日本庭園（八王子キャンパス）
- 08 学部・学環・研究科便り 応用生物学部
コンピュータサイエンス学部
メディア学部
工学部
デザイン学部
医療保健学部
教養学環
大学院バイオ・情報メディア研究科
- 12 学生・教員の受賞と活動 応用生物学部
コンピュータサイエンス学部
メディア学部
工学部
デザイン学部
医療保健学部
大学院バイオ・情報メディア研究科
- 19 KOUKADAI SNS
- 20 平成 27 年度学位記授与式
- 22 平成 28 年度入学式
- 24 大学事務局便 学長式辞
「学内合同企業セミナー」を開催
「八王子近隣地域学内合同企業説明会」を開催
デザイン学部「キャリアデザイン」本格化
東京工科大学同窓会 理事会・評議員会を開催
平成 28 年度スポーツ大会を開催
- 26 KOUKADAI Information 人事（採用、任命、昇格、退職、定年、組織改廃）
外部研究費関連（科研費・助成金・受託研究・共同研究・奨学寄付金他）
動物実験・遺伝子組換え実験実施状況
学事
（平成 27 年度学部卒業生・大学院修了者数、平成 27 年度就職状況、博士学位授与、平成 28 年度入学者数）
平成 29 年度入学者選抜日程表
平成 28 年度後期学内行事予定
決算・予算（平成 27 年度決算・平成 28 年度予算）
- 32 編集後記



表紙

八王子キャンパスにある研究棟 A・B。
A 棟には大学の講義室、研究室等があり、B 棟には姉妹校の日本工学院八王子専門学校の教室・教員室等がある。
12 階建てとなっており、地下 2 階にはコ・ジェネレーションシステムによる発電施設も備える、八王子キャンパスのシンボル。



学長メッセージ

「東京工科大学 30年の歩み」

みなさんこんにちは、学長の軽部です。東京工科大学は今年創立30周年を迎えました。今回は大学の30年の歩みについて述べたいと思います。

本学は1986年八王子の片倉町に工学部3学科の単科大学として開学しました。当時日本はまだ成長期にあり、産業界の要請により電子工学科、情報工学科、機械制御工学科の3学科からなる工学部を設置しました。東京大学名誉教授の高木昇教授が初代の学長として就任し、多くの受験生を集めました。その後、情報通信工学科を加えて4学科となり、文部省（現文部科学省）の臨時定員増を受け入れて入学定員620名となりました。



建築中の八王子キャンパス

90年代に入るとマルチメディアが注目されるようになり、メディア社会を支える技術者の要望が高まってきました。第2代の学長となる高橋茂教授は第3代学長となる慶應義塾大学の相磯秀夫教授の応援を得て、わが国で初めてのメディア学部を設立しました。

このメディア学部の開設の成功を得て、工学部を発展的に改組し、コンピュータサイエンス学部とバイオクス学部（現応用生物学部）を設立しました。これによって八王子キャンパスは3学部の理工系大学に発展しました。

本学を設置する片柳学園は、69年前の1947年に蒲田に誕生した創美学園が原点となります。片柳鴻理事長による蒲田キャンパスの再開が平成15年頃から始まり、大

学は蒲田に進出することになりました。ここで平成22年にデザイン学部と医療保健学部を開設することになりました。医療保健学部では看護学科を新設し、臨床工学科、



片柳研究所棟の建築中の様子

理学療法学科、作業療法学科を本学園の日本工学院専門学校から移行しました。医療保健学部については、臨床検査学科を平成26年に新設し、看護学科の入学定員も増員しました。また、デザイン学部工業デザインコースを設立し、工学系の学生の受け入れも始めました。

平成27年には八王子キャンパスに新しい工学部を開設しました。機械工学科、電気電子工学科、応用化学科からなり、入学定員を280名としました。この定員枠は、コンピュータサイエンス学部から180名、メディア学部から100名を移動し、これらの2学部は入学定員をそれぞれ300名としました。工学部は21世紀に相応しいサステナブル工学を提唱しており、この教育研究に相応しい産学連携によるコーオプ教育を行うことにしました。こうして東京工科大学は6学部と私立理工系大学では唯一の教養学環をもつ理工系総合大学に発展しました。

本学の理念は「実社会に役立つ専門の学理と技術の教育」等で、これらをまとめて実学主義教育と呼んでいます。この理念のもとで3つのポリシーを定め、入学を受け入れ、教育を編成・実施し、学位を授与しています。これらの教育によって得られる「学修の成果」すなわちラーニング・アウトカムズを6つ定めています。



蒲田キャンパス再開発の様子
左：建築中の新3号館
右：解体前の旧3号館

1) 国際的な教養、2) 実践的な専門知識と技術、3) コミュニケーション能力、4) 論理的な思考力、5) 分析・評価能力、6) 問題解決能力、これらの能力を4年間で身につけるため、アクティブ・ラーニングなどの学生が主体的に学ぶグループワークを積極的に取り入れています。また、本学は入試改革に積極的に取り組み、学修意欲の高い学生を獲得する努力を行っています。また、留年、休学、退学者を減らすための教育改革にも積極的に取り組み、アドバイザー教員による学生カルテの作成と学修指導、ピアサポート制度の採用、学修支援センターの拡充、ヘルスサポートセンターの設置、アクティブラーニングセンターの活用、教員の授業点検など多くの施策を実施しています。

大学は7年に一度、第三者機関による認証評価を受けることが義務付けられています。既に本学は平成19年度に文部科学省の指定機関である公益財団法人日本高等教育評価機構の認証評価を受けました。そして、平成26年度に再び日本高等教育評価機構の認証評価を受け、同機構が定める全ての基準を満たしていると評価されました。すなわち本学は常に自己点検・評価を行い、大学の使命・目的に沿った教育を行い、経営・管理と財務が健全であることが認められたこととなります。

東京工科大学は常に産業界の要請に基づく人材を育成して発展しており、今後も継続的に大学改革を進めていきます。

東京工科大学創立30周年記念公開講座のご案内

東京工科大学は今年創立30周年を迎えました。開学30周年を記念して「A I（人工知能）によって変わる未来」をテーマに公開講座を実施します。当日は学園祭（紅華祭）も開催しておりますので多数の皆様のご来場をお待ちしています。

- ・開催日 : 10月22日(土)13:00~16:40 (紅華祭初日)
 - ・開催場所 : 東京工科大学八王子キャンパス メディアホール
 - ・テーマ : A I (人工知能)によって変わる未来
 - ・参加費 : 無料
- ※詳細は、後日ホームページでご案内します。

「講座タイトル・講演者名」

- 「人工知能はどこまで来たか どこに向かうか」 公立はこだて未来大学 副理事長 松原仁教授
- 「医療現場におけるA I(仮)」 東京大学大学院医学系研究科医療情報システム学分野 大江和彦教授
- 「ディープラーニング恐るべし! 人工知能はどうして急にプロ棋士を越えられたのか」 東京工科大学コンピュータサイエンス学部 グリムベルゲン教授

KOUKADAI TOPICS

＋ 東京工科大学公式キャラクター 「こうかとん」が誕生しました！ ＋

東京工科大学の魅力を伝えるための広報用キャラクターを制作するため、本学の在学生を対象に「東京工科大学公式キャラクター」の公募を行いました。

応募数 386 点の中から、最終選考作品 11 点を選出し、その後、学生および教職員による投票を行い、投票数を参考に最終選考を行った結果、デザイン学部 4 年生の土肥千穂莉（どいちほり）さんが制作した「こうかとん」が東京工科大学公式キャラクターに決定しました。

今後、東京工科大学をPRするマスコットキャラクターとしてオープンキャンパスや紅華祭・かまた祭等、様々な機会でも活躍していく予定ですので、ぜひご期待下さい。

【こうかとんについて】

片柳学園の片柳鴻理事長のお名前「鴻（こう）」からコウノトリをモチーフに制作されました。

東京工科大学の名称「こうか」と土肥さんの地元のマスコットキャラクターであるコバトンの「とん」を融合させて「こうかとん」と制作者が命名しました。

「こうかとん」が身につけているバッグの中にあるタマゴの色は、東京工科大学の各学部カラーを意味していて、タマゴの中には学生達の夢が詰まっています。

【設定】

コウノトリは、赤ちゃんを運んでくるという言い伝えから、赤ちゃんの代わりに大学に通う学生達に夢を運びにきた、こうかとん。

タマゴには学生の夢がたくさん詰まっており、かぶっている帽子は、初めて夢を与えた学生からお礼にもらったもので、今では1番の宝物として毎日かぶっています。



©TOKYO UNIVERSITY OF TECHNOLOGY

＋ 第7回大学コンソーシアム八王子学生発表会にて 表彰される ＋

平成 27 年 12 月 5 日（土）～6 日（日）に八王子市学園都市センターで開催された、八王子地域 25 大学に通う学生を対象とした、産学連携及び地域活性化に役立つ日ごろの研究を発表する「第7回大学コンソーシアム八王子学生発表会」が開催され、本学学生 8 名が表彰されました。

■優秀賞

生命機能応用研究室

口頭発表 吉岡 仁美

「定量 PC 法を用いたワンステップメチル化 DNA 検出方法の開発」

次世代ゲーミフィケーション研究室

口頭発表 村上 和希

「学習ゲームを用いた小学生向けワークショップの提案」

化粧品材料化学研究室

口頭発表 三原 麻衣

「植物色素を用いた安全性の高いフォトクロミック材料の開発」

ヒューマンメカトロニクス研究室

ポスター発表 高野 賢太郎

「ウェアラブルマッサージャのための振動ユニットの開発」

バイオナノテクノロジー研究室

ポスター発表 染野 光輝

「3D プリンタによる DNA 操作用マイクロマシンの開発」

亀田・渡邊研究室

ポスター発表 ALKAIM ALAA

「A tudy on imulation of escue obot Team」

■準優秀賞

千種研究室

口頭発表 両角 信吾

「拡張現実感を用いた飲食店検索アプリケーションの開発」

企業プレゼン発表 清水 創

「屋内利用に適した視覚拡張による商品検索アプリの開発」

次世代ゲーミフィケーション研究室

展示 村上 和希

「学習ゲームを用いた小学生向けワークショップの提案」

十 昭和第一学園高等学校との連携協定を締結 十



東京工科大学は、昭和第一学園高等学校と教育連携協定を締結し、平成28年3月29日八王子キャンパスにて締結式を行いました。

この協定は高等学校との相互の教育に係る交流・連携を通じて、高校生の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、大学の求める学生像及び教育内容への理解を深め、かつ双方の教育の活性化を図ることを目的としています。

本校の授業科目や公開講座への聴講生としての受け入れなどを始め、様々な形で情報交換等をし、交流をまいります。

今後も東京工科大学はこのような高大接続の対象校をさらに拡大し、教育連携を推進していく予定です。

十 八王子市との包括連携協定を締結 十

平成28年2月9日八王子市役所にて、八王子市と東京工科大学及び姉妹校の日本工学院八王子専門学校は、包括連携協定を締結しました。

2012年にボランティア活動に関する協定を三者で結んでいましたが、この協定により協力関係がより一層強化され、幅広い分野において包括的な連携を推進でき、地域課題の解決及び地域の活性化並びにお互いの教育・研究の充実を図り、地域社会の発展に寄与することを目指します。

■連携・協力内容

下記に掲げる事項について連携・協力して目的を達成します。

- ・八王子市の施策の推進や地域課題の解決に関すること。
- ・まちづくり及び地域の活性化に関すること。
- ・生涯学習に関すること。
- ・学生の地域活動及びボランティア活動への参加に関すること。
- ・産学公の連携に関すること。
- ・その他前条の目的を達成するために必要な事項に関すること。



十 東京工科大学同窓会奨学金授与式を実施 十

平成27年度東京工科大学同窓会奨学金授与式を平成28年2月16日(火)八王子キャンパス本部棟にて行いました。

この奨学金は、東京工科大学同窓会が経済的に困難な在学生の支援を図り、東京工科大学の更なる発展に寄与することを目的としてつくられました。

授与式では軽部学長にご挨拶を頂き、新井同窓会副会長より採用者10名(蒲田キャンパス2名、八王子キャンパス8名)に奨学金が授与されました。



■同窓会 WEB

<http://www.teu.ac.jp/reunion/index.html>



Campus Scenes

日本庭園（八王子キャンパス）

日本庭園は、本部棟の南側のテラスから洋風の芝庭につながる池を境にして斜面に広がる限られた空間を占めている。本部棟1階のラウンジの椅子に腰掛けてガラス越しにこの庭を眺めると、春にはツツジ・サツキ・ツバキ、秋にはハギが滝壺から池の縁を彩りながら広がって目に入る。その背景に鴻稜美術館の入母屋屋根が樹間に優しい姿を見せ、さらに遠くに校舎群が連なって視野を広げてくれる。庭の東側はできる限り自然の山に仕立てた庭木を植え込み、斜面を登る渡り廊下の修景にした。

（『鴻図』より引用）

応用生物学部

応用生物学部の色彩検定対策講座

色彩は、寒暖、嗜好、食欲などの感覚を左右するのはもちろん、顔色から健康状態を知ることまで広範囲に影響を及ぼす要因です。色彩に関する基礎的知識を身につけると、化粧品分野だけでなく、食品分野、環境分野、医薬品分野においても応用することができます。

たとえば、一般的な赤色にも色々な種類があり、かなり異なって見えたり、同じ色に見えるのに別の名前で呼称されたりと、一色一語とは限りません。このあいまいさを避けるために、これらに番号や記号を付して色彩を表現することがなされており、これには色彩の科学的な知識が必要となります。その色彩に関する知識を身につけるのが『色彩検定』です。

これは、公益社団法人色彩検定協会が実施する色に関する知識および技能を問う検定試験で、文部科学省後援の検定試験です。

試験は1級から3級までの3段階に分かれており、1級は1次試験と2次試験(技能試験)があるのが特長です。

現在、応用生物学部では色彩検定1級および2級の試験対策として学部学生を対象に毎週1回(90分)の対策講座を実施しています。これまでに30人ほどの学生が受講し、1級合格者3名(合格率100%)、2級合格者19名(合格率90%以上)の実績があります。

2016年度は、1級対策講座に1名、2級対策講座に9名の学生が参加しています。

色彩検定はファッション、美容、インテリアなどの幅広い職種に受け入れられており、最近では、スマートフォンを活用した肌判断

アプリの開発などを行うIT企業のニーズもあり、応用生物学部の新しい分野の教育・研究および就職活動に役立つと考えています。



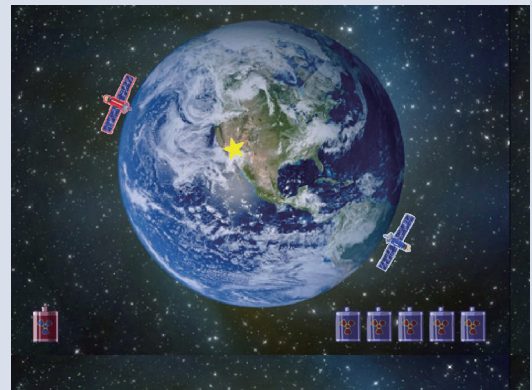
コンピュータサイエンス学部のプログラミング教育について

現代社会はコンピュータシステムにより支えられており、この状況は今後も変わらないものと思われます。このような社会情勢のもと、2012年からは中学校の技術家庭科で「プログラムによる計測・制御」が必修になりました。さらに、2020年の指導要領からは、小中高校でのプログラミング教育の必修化が盛り込まれる模様です。

一方世界を見ると、プログラミング教育で最も成功していると言われているイスラエルでは、コンピュータの使い方と仕組みを学ぶことに焦点を当て、2000年にはすでに国を挙げてプログラミング教育に注力し、結果として現在では多くの成果を上げています。その後も、イギリス、エストニア、アメリカ、フィンランド、シンガポールなどの国々が、プログラミング教育を重要視し始めております。日本もやっと本腰を入れ始めるようですが、実はコンピュータサイエンス学部では、設立当初からすでにプログラミング教育の重要性を認識しており(これ故に、当初から「コンピュータサイエンス学部」と名乗っています)、昨年度からはさらに「プログラミング実験(1年次前期開講)」を追加的に立ち上げ、プログラミングの難しさ楽しさを、達成感のあるプログラム作品制作を通じて、学生たちに知ってもらう試みを行っています。この授業は、学生の言葉によると「内容は難しく、作業量も多くて大変だけれども、学んでよかったと思える授業」とのこと。また、この授業を受けた学生たちは現在、2年次開講の「コンピュータサイエンス実験(テーマ1)」にて「売れるゲームソフトウェアの企画・開発」を行っています。グループによってはあっさりとしてプログラミングを完了してお

り、「1年の時の苦労に比べると大したことはありません」とコメントしてくれる学生もおりました。

コンピュータサイエンス学部としては手探りの部分はあるものの、学生たちが生き活きとこれからの社会で生き抜くための能力を高めてくれる姿を見ていると頼もしいものがあります。プログラミングに手こずっている学生たちも、プログラミングだけがコンピュータサイエンスの仕事ではないことを、チーム活動を通じて学んでいってくれており、彼ら彼女らの10年後20年後の将来が楽しみです。



コンピュータサイエンス実験(2年前期開講)で学生たちが企画を立て提案し実装したゲームの画面。地球をまたがって人工衛星同士が球を打ち返すゲームで、360度移動できるホッケーゲーム。軽快で心地よいBGM付きで、リラックスしつつも熱くなるゲームです。

コンピュータサイエンス学部

「先端メディア学」と「先端メディアゼミナール」

前号ではメディア学の先端を走り続けるための教育研究として、「先端メディア学／先端メディアゼミナール」という授業科目の開講を計画中であることを報告しました。個別のテーマは19種類あり、研究と結びつけて実施されます。そして平成28年4月、計画通り順調にスタートさせました。それら授業の実施風景として、ここでは5つの写真を掲載します。「AIによる音響分析：大淵教授」、「デジタル時代の映像コンテンツ制作：宇佐美教授」、「楽しさの理論によるインタラクションデザイン：太田准教授」、「Procedural Animation：菊池准教授」、「IoTシステム実践：寺澤准教授」という「先端メディア学／先端メディアゼミナール」の授業風景を示す写真です。これらにて一般的な授業とは異なることをお伝え出来ると思います。選抜された2名から10名程度の優秀な学生たちは、自主性も大事にしながら、研究の楽しさを味わっています。先端メディア学の開講によって、研究心が強くGPAも高い優秀な学生は1年次からでも学部4年次生や大学院生と同様な環境での学びが出来るようになりました。彼らの将来が楽しみです。



今回はもう一つの大事な報告として、学内共同研究として行われた「インタラクティブ広告プロジェクト：(代表) 進藤教授」の実施結果があります。本プロジェクトは人々のライフスタイルが多様化している中、それぞれの顧客特性に応じた広告の提示も技術的には可能であることを背景に実施されました。従来、広告の研究は殆どが社会科学やクリエイティブ面の視座からのものでしたが、ここではメディア学における技術も生かした新規性の高い広告の研究を目指しました。その研究成果として、学会誌学術論文(査読付き)2件、国際学会論文(査読付き)1件、学会発表10件を半年の間に行うことができました。また、平成27年12月12日にアイデアソンを、平成28年3月17日にシンポジウムを実施し、研究成果を对外発表するとともに、産学連携、他大学、八王子市、新聞社との連携をはかることも出来ました。また、連携の拠点として片柳研究所棟5階にアドテクセンターを開設することもでき、今後も広告の研究をさらに発展継続させたいと思っています。



片柳研究所棟5階アドテクセンター

サステイナブル工学基礎が開講

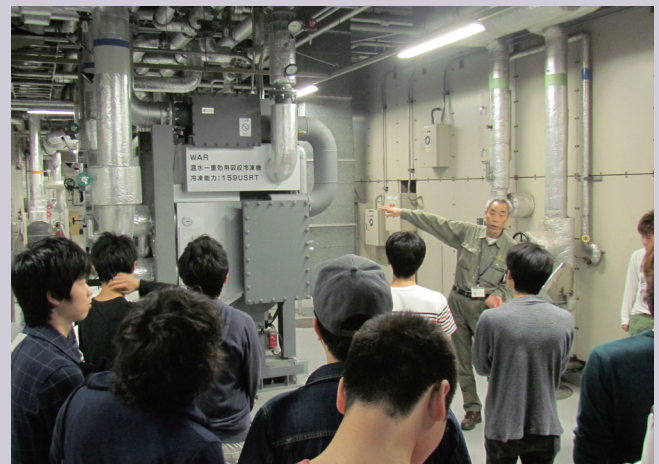
工学部ではサステイナブル工学の全体教育として、「基礎」「実習」「プロジェクト演習」の3つの講義を三学科の学生全員と一緒に学ぶカリキュラムを組んでおり、4月8日、その第一弾である「サステイナブル工学基礎」が2年生に対して開講されました。

第1回は「サステイナブル工学入門」と題し、人類の統一理念「Sustainable Development」の考え方、サステイナブル工学の概念と背景、目標、具体的な進め方、さらにはグローバルリーダーとして活躍していくための心構えなどを中心に講義を行ない、300名を超える学生たちも最後まで真剣に聴講し、まずは順調なスタートとなりました。

本講義では、私たちがめざす未来像を探究し具現化するためにサステイナブル工学が果たすべき役割を明確にしなが、課題解決に有効な知識の獲得と改善策を評価する方法の修得を主眼としています。講義の前半では、環境やエネルギー問題の概要とサステイナブルな材料・素材、設計・製造、システム化に関する技術課題等を学んで全体像を把握します。後半では、これらの包括的な知識を有する者が技術や製品のサステナビリティ(持続可能性)を評価し向上させるための手法として、ライフサイクルアセスメント(Life Cycle Assessment, LCA)と環境効率評価、関連する各種指標等を学修します。

現在は後半に差し掛かったところで、上記の講義に加え、サステイナブル工学に関連する学内施設の見学、ワークシートを用いた知

識の整理、さらには環境問題の解決手段に関するグループ討議を実施してサステイナブル工学に対する理解と考察を深めています。今後は、演習問題に取り組みながら様々な評価手法について学び、工学者としてサステイナブル社会の実現に貢献するための科学的なアプローチ方法を身に付けていく予定です。



サステイナブル工学に関する学内施設を見学中の学生達

デザイン学部

デザイン開発プロジェクト、試作デザインはじまる

市川徹教授を中心に山岡俊平教授、伊藤丙雄教授、本郷信二准教授、酒井正講師、伊藤潤助教のメンバーによる3年目に入るデザイン開発プロジェクトは、「災害時避難用品のシステム開発」というテーマをもとに、関連する大田区内の企業訪問を実施し、それぞれの企業で開発されている技術や取り扱い製品について調査を行いました。

また、大田区役所等の防災担当者へのインタビューを通して、地域での防災計画の現状を認識し、対策が必要とされる箇所の確認を行ってきました。こうした活動を通して単なる災害時ではなく、大田区特有の都市型災害に焦点を当て、近い将来起こると言われている、首都直下型地震を見据えた用品の開発を進めてきました。

都市型災害では自宅からの避難だけでなく、オフィスから自宅あるいは避難所への移動も考慮しなければなりません。数多くの用品が市販されている中で、開発の目的に合ったデザインや機能を持った商品サンプルを取り寄せて、実際の使い勝手を検証しながらアイデアの展開を行ない、現在デザインの方向性を目的別に3つに絞って、試作への検討を進め実用化に向け活動しています。



試作デザインスケッチ

大田区と連携した『大田区健康効果大学』が始まりました

大田区と連携した理学療法学科の取り組みとして、大田区健康効果大学が本年度の4月から始まりました。

これは東京工科大学内の学科横断的な共同研究事業の一環で、大田区在住の健康な地域高齢者に対して、半年間にわたり計13回の講義と運動を実施し、大田区健康効果大学の開始前後で認知機能や身体運動機能の変化を調査するものです。40名の定員に対し、200名を超える応募があり、地域の方々の健康指向の高さや医療保健分野に対する高い期待が表れていました。

本講座では、筋力など身体機能の低下により不健康を引き起こすフレイル（身体的虚弱）を予防し、健康寿命を延伸することを目的とし、運動や栄養などに関する基礎的知識を学修し、実際に運動を行います。

各講義の開始時に前回の講義内容に関する確認テストを行い、自宅での運動の実施用紙を各回で確認し、教員からのコメントを記入するなどして講義への参加や運動を継続できるような工夫をしています。また、本講座の初回と最終回に実施される体力測定には学生が参加し、実際に様々な測定を行っています。各回の講義にも学生が参加し、運動の補助や誘導などを行うことで、臨床実習に対する実践的な教育の一輪を担っています。

本講座を受講できなかった方々に対しては、同様の体力測定会のご案内をし、4月29日、30日の2日間で130名を超える方々が参加されました。測定に参加した学生の測定技術が向上することはも

ちろん、様々な説明や礼節の向上の必要性として、とても教育効果の高い取り組みでした。

今後は第二回目の大田区健康効果大学が10月より開始予定です。



医療保健学部

学修支援センターが新体制でスタート

本年4月より、学修支援センター（LSC）が新体制でスタートしました。蒲田キャンパスでは、学修支援センターが3号館から12号館に移転し、場所も広くなりました。新・学修支援センターでは、これまでより一層、学部との連携を強化し、学生が利用できる科目数、指導員がセンターにいる日数も増やしました。利用者数は前年度より大幅に増えているので、効果が出ていると考えられます。

学修支援センターは、来訪学生のために、各科目専門指導員による、①授業内容の十分な理解のための懇切丁寧な指導（授業内容の基礎理解支援）、②授業で学んだことをさらに深く広く学ぶための刺激提供（授業内容の発展学習支援）、を主な活動にしています。

また、新たな試みとして、月初に前月の使用状況をまとめた『月次報告』を作成することにしました。そして、学修支援センターの指導員からの情報を教員が正確に把握できるよう教職員専用のポータルサイトに掲載し、教員も気軽に情報にアクセスできるようにしています。月次報告を読めば、学部科目との連携状況、現在の問題点、今後の課題点などが明らかになり、学生へのサービス向上の一助になります。

今後も、教員と学修支援センターの連携で、一人でも多くの学生が、意欲的に大学での学びに取り組めるよう支援していきます。



平成27年度海外研修報告

青く澄み渡るロサンゼルスの大空の下、平成27年9月2日（水）～8日（火）まで、八王子・蒲田の両キャンパスから34名の学生たちが海外研修に参加し、米国カリフォルニア州ロサンゼルスにて見聞を広めてきました。映画の聖地ハリウッドでは、ビバリーヒルズの街並みや著名な俳優たちの手形で飾られたウォーク・オブ・フェイムを見て心躍らせ、カリフォルニア・サイエンス・センターではスペースシャトル「エンデバー」の実物を前にその大きさに圧倒されました。新学期を迎えて学生たちでにぎわう南カリフォルニア大学では、講演を聞き、学生たちが作業する映像・照明・音響の編集室、録音スタジオ等を見学。また、ロサンゼルス市内を見渡す小高い丘に立つポール・ゲッティ美術館では、緑あふれる庭を散策し、芸術作品に触れるひと時も。さらに、全米日系人博物館を訪れ、日系人の悲しく厳しい戦時中の体験について学ぶ機会を得ました。研修の後半では、ディズニーランドでの教育プログラムに参加し、グループ活動を行いながらリーダーシップについて学ぶことができました。短期間でしたが、参加学生たちは内容の濃い充実したプログラムを楽しみ、収穫多き海外研修となりました。



学士・修士一貫早期修了プログラムの紹介と本格的な制度スタートについて

本学は、学生たちの将来を切り拓く意味でも大学院への進学を、積極的に応援すべきという方針のもとに、具体的な支援制度として「学士・修士一貫早期修了プログラム」を導入しています。これは、学部課程と修士課程を実質一貫教育として通常6年間を要する修了期間を、より短い5年間で修了し、「学士」と「修士」の学位を両方取得可能なユニークな制度です。

このプログラムは、次のような仕組みで実際に運用されます。

- ①学部2年次修了時まで特に優れた成績を修め、早期に本学大学院進学を希望する学生が対象。
- ②対象者は、通常より半年早く卒業に向けた卒業研究を開始し、4年次前期修了時に卒業論文を完成させ、学士の学位を取得。
- ③4年次前期には卒業論文作成と同時に大学院の科目を一部履修できる制度（イミグレーション科目）を併用することで、学部を卒業後、そのまま修士課程に進み、大学院在籍1.5年で修士の学位を取得できる。

意欲と能力のある学生が、大学院において高度な学術研究に挑戦し、専門性の高い学問や研究に打ち込めることができるメリットのあるプログラムです。さらに、大きなメリットは高度な学問を修めた修士号取得者として、通常より1年早く社会の最先端で活躍することが可能となることです。

実際に、この制度は本年度の新3年生から対象者が初めて決まり、本格始動となりました。この制度を活用して、この一貫コースに進むことを決意した学生は、八王子の3学部（応用生物学部、コ

ンピュータサイエンス学部、メディア学部）で、合計18名となりました。実際に応募された学生にインタビューしたところ、この制度の説明会やアドバイザー教員との相談を通じて制度の内容をよく理解し、ご両親とも十分に相談した上での結論だったとのことでした。ただし、入学前後から、こうした魅力的なコースがあることを宣伝して欲しいという意見がありました。これらの意見も踏まえて学生への早期情報提供や相談会が開催できるように改善したいと思います。

初の制度に果敢に挑戦した学生をこれからも引き続き応援していくとともに、この制度が進学を志す学生や保護者の皆様にとってより魅力的になるように改善したいと思います。



新特進コース第一期生候補に選ばれた3名（メディア学部3年生）

学生・教員の受賞と活動

School of Bioscience and Biotechnology

応用生物学部

祝 応用生物学部 4 年生が色彩検定 1 級に合格

4 年生の菌部綾乃さん(前田研究室)が色彩検定 1 級に合格しました。

色彩検定(文部科学省後援)は色に関する幅広い知識と技能を問う検定試験で、「感性」だけによるものと見られがちであった「色に関する知識・技能」を理論的、系統的に学ぶことにより、「色彩の実践的活用能力」を身につけることができます。色彩検定 1 級合格者は、色に関するスペシャリストとして社会的な認知を得ており、ファッション・インテリア・美容関係での活躍が期待されます。

公益社団法人色彩検定協会(旧:社団法人全国服飾教育者連合会)が実施している検定試験です。なお、前田研究室では週に 1 回、秋本講師による色彩検定の勉強会を行っています。

他 応用生物学部 4 年生が TBS の番組「未来の起源」に出演

2 月 14 日(日)に TBS(関東地域、愛知、岐阜、三重)で放送された最新技術などの研究に取り組む若手研究者を紹介する、TBS の番組「未来の起源」に応用生物学部 4 年生三原麻衣さん(担当教員:柴田雅史)が出演しました。番組では三原麻衣さんがフォトクロミック材料の開発をする若手研究者として紹介され、コメントしました。

この内容は 2 月 21 日(日)BS-TBS「未来の起源」でも全国放送されました。

出 西野智彦准教授がテレビ朝日の番組に出演



テレビ朝日系列で放送されているバラエティ番組「中居正広のミになる図書館」に、西野智彦准教授が専門家として出演しました。

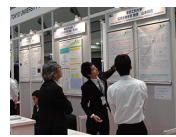
番組では「世間で流行しているらしいマヌカハニーというハチミツと乳酸菌」について解説し、西野研究室で収録された実験が放送されました。

版 佐藤拓己教授の著書が Amazon ベストセラーランキング老化部門で一位にランキングされる



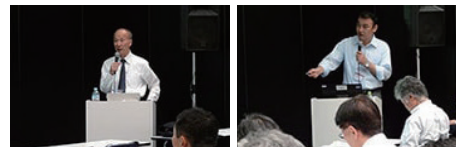
「体内年齢がよみがえる科学「ケトン体革命」究極のアンチエイジング理論」を佐藤拓己教授が 4 月 16 日出版し、4 月 23 日に Amazon ベストセラーランキング老化部門で 1 位にランキングされました。

展 「BIO tech2016 第 13 回アカデミックフォーラム」に出席



平成 28 年 5 月 11 日(水)～13 日(金)に、東京ビッグサイト、ライフサイエンスワールド会場にて開催された「国際バイオテクノロジー展 BIO tech 2016」に出席し、同時開催された「第 13 回アカデミックフォーラム」において、山本順寛教授他 4 名が口頭発表とブース出席しました。発表内容は以下のとおりです。

- 横山憲二教授
次世代ヘルスケアデバイスの研究開発
- 山本順寛教授
ペルオキシナイトライトの捕捉剤としてのエダラボン
- 秋元卓央教授
薄膜干渉基板を用いた蛍光の高コントラストイメージング
- 岩淵徳郎教授
男性型脱毛改善のためにどの医薬部外品有効成分の活用が有効なのか
- 杉山友康教授
核酸医薬のための人工的な shRNA の合成と探索および発見



School of Computer Science

コンピュータサイエンス学部

賞 情報処理学会グループウェアとネットワークサービス研究会にて優秀発表賞を受賞



平成 28 年 1 月 21 日～22 日に熊本で開催された情報処理学会第 97 回グループウェアとネットワークサービス研究会で、井上亮文講師が優秀発表賞を受賞しました。

【発表題目】
拡張現実感による食品咀嚼回数の増加手法

また、同研究会の第 98 回において、コンピュータサイエンス学部 4 年生の溝口泉さんが優秀発表賞を受賞しました。

【発表題目】
WARAJI~曲げセンサを用いた路面状態の推定が可能センサ内蔵靴

グループウェアとネットワークサービス研究会は、グループウェアとネットワークサービス研究の活性化を目的として活動しており、研究会にて優秀な発表を行った論文を優秀発表賞として表彰しております。

他 TBS「あさチャン! サタデー」の番組制作に協力



TBS「あさチャン! サタデー」の特集で「ながら運転の危険性」について検証する実験が荻谷光晴助教(平成 28 年 3 月 31 日退職)、菊池真之講師の協力のもと実施され、2 月 27 日に放送されました。

この実験では、自転車運転時において、通常時と音楽を聞きながらの場合との比較を視線計測装置により行いました。視線の動きの違いについて分析し、比較することで、音楽を聞きながら自転車を運転する危険性について検証しました。



賞 情報処理学会学会活動貢献賞を受賞

一般社団法人情報処理学会より宇田隆哉講師が「学会活動貢献賞」を受賞しました。

この賞は、情報処理学会で運営や会員サービスの向上等に関して貢献した人を表彰するもので、宇田講師の論文誌への査読貢献が認められ表彰されることになりました。

その後、平成 28 年 6 月 3 日の定時総会で賞状が授与されました。



合 渡辺研究室の学部3年生9名がプロ無線従事者国家試験に合格

渡辺研究室では、本格化する「IoT」を支える無線技術の研究に取り組んでいます。

世の中は今、身の回りの様々なモノが無線技術などにより相互に情報のやりとりを行う新しい技術、「IoT: Internet of Things (モノのインターネット)」の時代に突入しています。

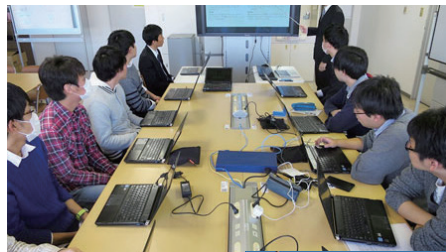
このIoTに不可欠なのは、通信環境の変化などに対して、高い信頼性を保つ無線技術です。そこで渡辺研究室では、無線機自らが環境に応じて通信手順を変える適応無線技術の研究を推進しています。いわゆる、切れない柔軟なネットワークを構築して、モノ同士が双方向制御を行うための技術開発に取り組んでいます。

新しい無線方式の評価に必要な実験無線局を学内に開設するために、昨秋、配属された3年生(現4年生)は、「創成課題」の講義にて無線工学と電波法規を習熟し、2月、プロ無線従事者国家試験に挑戦しました。

結果、受験者の殆どが社会人の状況のなか、9名が見事合格しました。これにより、実験無線局開設のための総務省への申請や、無線局の落成検査を実施して行きます。

今まで交じり合わなかった医療と農業などあらゆる分野で、モノや人が技術でつながっていくIoTの面白さを体験していきます。

※第1級陸上特殊無線技士(30MHz以上・500W以下の無線局を開設可能)



渡辺研の勉強風景



研究などに活用される直径約3メートルのパラボラアンテナ

School of Media Science メディア学部

協 フランスの教育機関「ISART Digital」と本学が協定を締結

平成27年12月1日にフランスの教育機関「ISART Digital」と本学が協定を締結しました。

ISART Digitalは、Computer Graphicsの世界最高峰の学会であるSiggraphのComputer Animation FestivalにおいてBest Student Projectを受賞したり、世界的に有名なゲームエンジンであるUnityのUnity3D Award(2014)においてBest Student賞を受賞するなど、非常に高い実力を有しております。

今後は、独特のセンスと高い制作技術を持つ、ISART Digitalと先端的なコンテンツ研究を進める本学の間で、共同開発プロジェクトや、教員、学生の交流など様々な取り組みが、日本とフランス(パリ)で進んでいきます。

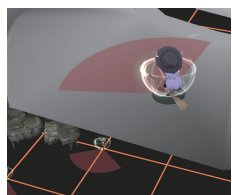


載 教育解説が「日経テクノロジーオンライン」に掲載される

平成27年12月21日の日経テクノロジーオンラインに、渡辺大地講師の教育解説記事「独自ツールキットを用いたゲーム制作教育への取り組み」が掲載されました。

本記事では、メディア学部におけるゲーム制作教育について解説をしています。

この内容は、情報処理学会学会誌平成27年12月号の「べた語義」に掲載されたものですが、この学会誌では毎月読者のニーズが高いと思われる1記事を日経テクノロジーオンラインにて配信する試みを行っており、12月号では当記事が採択されました。



紹 「手の動きでプレゼンを録画するシステム」が紹介される

平成28年1月6日のICT教育ニュースに千代倉弘明教授の教育プレゼンテーションを録画するシステムPVCTが紹介されました。記事ではPVCTにてLeapMotionを利用し、手の動きでプレゼンを行なえるシステムの動画を公開したことが紹介されました。



彰 招待講演が国際学会ICIETにて行われる



平成28年1月4日～6日に、ロサンゼルスで開催された教育工学の国際学会ICIET2016(4th International Conference on Information and Education Technology)にて、飯沼瑞穂准教授が招待講演を行い、また、招待講演・学会委員での活躍の貢献の証明として表彰されました。

本学会には約16か国からの参加者が集った国際学会となりました。講演のタイトルは以下の通りです。

『Teaching and Learning with Technology in the Knowledge Society: Literacy and the use of digital content through collaboration』

デジタルコンテンツを活用した教育方法とその可能性をテーマとした内容です。

他 学生が制作した無料情報誌「98!」がYahoo!ニュースで紹介される

メディア学部3年の藤島久磨さんと宋京舟さんによる「Peace-Terror」が立ち上げた無料情報誌「98!(きゅうはち)」が、八王子市内の大学に通う学生を対象として発行し、その内容がYahoo!ニュースで紹介されました。

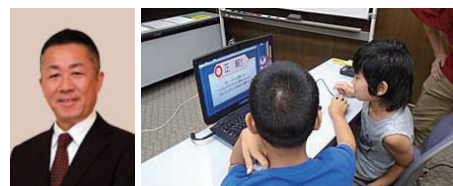
この情報誌は、学生がイベント等の情報を気軽に発信してもらえるよう掲載料金を安く抑えるなどの工夫をし、「学生にもっと八王子に興味を持ってもらいたい」と企画されました。

4月29日に発行後、以降は、毎月第1・第3金曜日に発行予定です。

展 インターネット安全学習ゲームを埼玉県警のイベントで展示!

岸本好弘准教授と学生らが、埼玉県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課主催の「サイバーセキュリティについて考えよう!」イベントにて、インターネット安全学習ゲーム2タイトルを展示しました。

今回展示した『セキュアタイセン』、『ネコと学ぶSNSまにゃー』は、ゲームを用いて子ども達に楽しく「インターネット安全学習」をさせるもので、「第3回シリアスゲームジャム」にて制作され、「夏休み子どもいちょう塾」やイベント等で活用されています。



出 学生らがFM戸塚放課後放送部に出演

メディア学部学生らが、FM戸塚「放課後放送部」に出演しました。

番組名: エフエム戸塚 放課後放送部
内容: 地元の大学などの学生が、キャンパス生活を紹介する番組
出演者: 鈴木美佳さん、西友里子さん(先端ゼミ2「デジタル時代の映像コンテンツ制作」ゼミ生)、上村祐希さん、南陽介さん(宇佐美研自主ゼミ生)

出演者からのメッセージ:
東京工大生である私たちの学生生活について話しました。この大学への進学を考えている方もそうでない方も是非聞いてください。

宇佐美研先端ゼミ2では、3年生向け卒業研究室申請支援コンテンツとして、「あなたにぴったりの研究室はここだ!」というスマホWebコンテンツを、今年も制作中です。8月のオープンキャンパスでも高校生向けに展示します。



エフエムTOTSUKAの公式ブログに掲載された記事についてはQRコードからどうぞ。

報 『第4回シリアスゲームジャム』開催報告

平成28年2月20日(土)～21日(日)、『ゲームの力で世界を救え!第4回シリアスゲームジャム』が都内会場にて開催されました。今回は、現代社会に定着した「エコ」を一步先へ進めた「サステナブル社会」を広くPRするためのゲームを開発しました。

参加者の学生・社会人37名が5チームに分かれて(うち本学の学生14名)実施され、岸本好弘准教授、三上浩司教授が運営として参加、工学部からは、今回のテーマにもある「サステナブル工学」の専門家として大久保友雅機械工学科講師、芝池成人機械工学科教授が参加し、各チームに専門的なアドバイスを与えました。



■1日目

まず、主催者を代表して岸本好弘准教授が「シリアスゲームジャムの社会的意義」をスピーチしました。つづいて「オープニングミニ講演」として、大久保友雅講師による「「エコ」の一步先の「サステナブル社会へ」をテーマとした話をしました。

そして、いよいよ「ゲームジャム」のスタートです。参加者紹介を兼ねて、各チームの企画をプレゼンテーションしました。その後、チーム毎に制作作業に入り、1日目の作業は20時で終了しました。

●チーム1「星に住む人」(提案者: 栄倉)

小学生が星空の街を取り戻すために街をきれいにするゲーム。サステナブル社会の「トレードオフ」が学べる。



●チーム2「2匹の快適生活」(提案者: 奈良)

陸と海に住んでいる2匹の生物を育てるゲーム。陸続きなので環境のバランスに注意。サステナブル社会が学べる。



●チーム3「全自動缶はこびアルゴリズムロボットをつくらう!」(提案者: 長南)

空き缶再生ロボットのプログラムを組んでうまくゴミをリサイクルするゲーム。サステナブル社会の「循環」が学べる。

●チーム4「SPACE COLONY Side-Earth」(提案者: 八野)

スペースコロニー経営ゲーム。残された資源をうまく使って継続可能なコロニーにする。サステナブル社会の「トレードオフ」が学べる。

●チーム5「ガラクタの地球VR」(提案者: 林)

VR視点の宇宙船で地球から流れているゴミをリサイクルするゲーム。サステナブル社会の「循環」

が学べる。

■2日目

まず、現状の作業状況を「中間発表」した後、2日目の作業を開始。16時で全作業を終了とし、「最終発表」を行いました。運営委員や専門家8名による審査の結果、5作品の中から「最優秀賞」「優秀賞」「サステナブル賞」「KLab賞」が選ばれ、表彰式が行われました。最終発表会および表彰式には多くの取材・見学者を迎え、大賑わいのうちに終了しました。

今回の情報は、「第4回シリアスゲームジャム公式ホームページ」、および「IGDA日本ニュース」でご覧頂けます。



賞 第78回情報処理学会全国大会において学生奨励賞を受賞

平成28年3月10日(木)～12日(土)に慶應義塾大学上キャンパスで開催された第78回情報処理学会全国大会において、メディア学部学生が発表した論文が学生奨励賞を受賞しました。

名前・学年	指導教員	受賞論文名
土屋日海留 4年	上林憲行教授	学生を対象とした活動パフォーマンスとコンピテンシー及び実行行動の関係性についての実証調査
菊地健祥 4年		チャットと対面コミュニケーションを組み合わせた人狼ゲームの提案と支援サービスの制作
赤沼隆聖 4年		Massive 綱引き: スマートフォンの加速度センサーを基に、チームで協調して綱を引くエネルギーを最大化して競うことのできるバーチャル綱引きサービスの開発
黒木将寿 4年	太田高志准教授	立体オブジェクトをインターフェースとするモバイルコンテンツの作成
宮川貴匡 4年	松永信介准教授	Memorage: 複数のモーションセンサを活用した指文字学習支援システムの構築
ウィリアムストリスナ 4年	竹島由里子准教授	チェスボード撮影動画からの駒認識
大高直哉 4年	寺岡丈博助教 榎本美香講師	人狼ゲームにおける役割固有の視線に関する分析

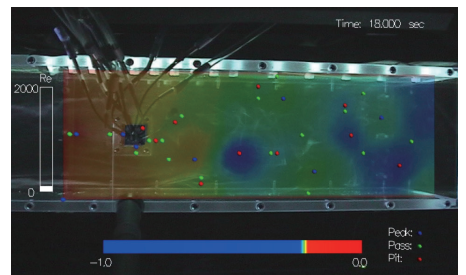
賞 画像電子学会の西田賞・最優秀論文賞をダブル受賞

竹島由里子准教授が、デジタル画像技術やCG技術を研究する「画像電子学会」から「最優秀論文賞」と「西田賞」をダブル受賞しました。

画像電子学会は、デジタル画像技術やCG技術の研究者が集まる学会です。

受賞対象となった竹島准教授の研究は、空間内の風速データ列の中から渦の場所や中心位置を検出・追跡するものです。流体シミュレーションの結果は可視化してCG表示を行います。

今回の賞のうち、「西田賞」は、2年に1回、1名だけ選出されるもので、たいへん価値のある賞です。本学大学院の客員教授も努められている西田友是先生の世界的なCG研究業績にちなんで、10年前に創設されました。



渦中心(緑と赤の点)の検出と可視化



西田賞の表彰
左: 竹島由里子准教授
右: 長橋宏画像電子学会会長

賞 「Global Math コンテスト 2015」にて最優秀賞ほか5つの賞を受賞

株式会社ベネッセホールディングス主催「Global Math コンテスト 2015」最終審査会がベネッセ新宿オフィスにて開催されました。本コンテストは、世界に向けて数学的な考え方が学べるゲームを制作するコンテストです。メディア学部は2013年の第1回から連続して参加しており、本年度は10チームが春休みを利用して数学ゲームを制作し、プレゼンテーションを行いました。

審査の結果、応募総数40作品の中から、チームBest.の『どんぐりシューター』が開発部門・最優秀賞に選ばれた他、合計5つの賞を受賞しました。

【開発部門】

最優秀賞1位	どんぐりシューター	チームBest.: 村上和希 3年
準最優秀賞2位	Colorful Painter	チーム Type World: 小笠原世界、長戸美紅(東京造形大学) ※全員 3年
準々最優秀賞3位	ルートキューブ	チーム正三面体: 脇坂明日香、梅垣星香、洲之上風太 ※全員 2年
優秀賞	図形エレベーター	チームインスタント: 石井悠太、新保拓実、谷龍一、青木拓哉 ※全員 1年

【普及アイデア部門】

努力賞	グローバルゲームマス	チームパラノウエ: 池上友貴 3年
-----	------------	-------------------



賞 「映像表現・芸術科学フォーラム 2016」にてメディア学部学生らが最優秀賞など5つの賞を受賞

平成 28 年 3 月 9 日（水）に東京工科大学で開催された「映像表現・芸術科学フォーラム 2016」において、メディア学部菊池研究室の学生らが発表をして5つの賞を受賞しました。

名前・学年	指導教員	受賞論文名
【口頭発表最優秀賞】 森 崇圭 4年	菊池司講師	ロゴタイプ・マーク構成要素の分類に基づいたモーショングラフィックスの生成
【映像発表最優秀賞】 宮脇 巧真 4年		Crossing Tokyo
【ポスター発表優秀賞】 宮脇 巧真さん 4年		360 度動画による映像表現の可能性の提案
【CG-ARTS 人材育成パートナー企業賞 (株式会社コロブラ)】 宮脇 巧真 4年		360 度動画による映像表現の可能性の提案
【CG-ARTS 人材育成パートナー企業賞 (株式会社ボンデジタル)】 宮脇 巧真 4年		Crossing Tokyo

展 吉岡研究室が「Interop Tokyo 2016」に出展

吉岡研究室では、ビーコン端末などを活用した地域密着型の音楽情報キュレーションプラットフォームを開発しました。これは、生活地域に密着した音楽情報や、個人の音楽活動に着目した新しい音楽情報キュレーションサービスです。4月20日から八王子市内の音楽施設や音楽イベントでの試験運用を開始しました。

さらに約500企業が集う国内最大級のICTイベント「Interop Tokyo 2016」に出展し、同プラットフォームのデモンストレーションを行いました。



School of Engineering 工学部

講 名古屋大学「天野浩教授」特別講演会「世界を照らすLED」開催報告

平成 28 年 4 月 13 日に東京工科大学工学部の1、2年生を対象とした特別講義として、2014年にノーベル物理学賞を受賞した名古屋大学天野浩教授に「世界を照らすLED」をご講演いただきました。

片柳研究所棟地下ホールは満員盛況で、立ち見まで出ており、先生には大変ご多忙の中、工学振興のために、新しい本学工学部へ「特別に」エールを送っていただきました。

ご講演は、まず学術的イノベーションを必要とする世界の現状と問題、個の幸せについて、ご自身のお考えから高校時代や大学時代に先生の思ったこと考えられたこととお話しされました。高校時代の話では本学片桐教授と浜松西高校時代のエピソードなども頂きました。

続いて大学時代はなぜLEDの研究に進んだのか、研究の進捗と展開、LEDの波及効果とその将来展望、価値についてのお話でした。先生の苦勞話や、出

いについての重要性などもお話しされました。

最後に天野先生から学生へのメッセージとして「挑戦、自立、貢献」のキーワードのもと、学生は挑戦すべきというメッセージを頂きました。

学生との質疑応答などは応用化学科BLOGをご覧ください。

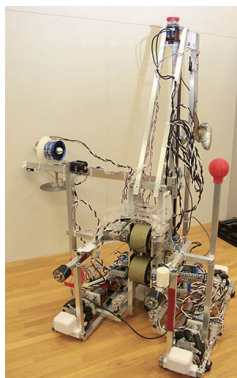
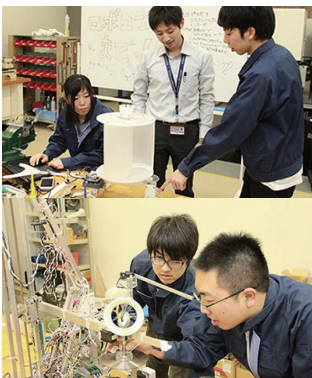


応用化学科ブログ記事
「名古屋大学 天野浩教授
特別講演会（片桐教授）」

祝 「NHK 学生ロボコン 2016」の本戦出場決定！

コンピュータサイエンス学部のプロジェクト実習「テーマR」の2015年度受講生と工学部機械工学科学学生、電気電子工学科学学生の有志によるチーム「プロジェクトR」（チームリーダー：田中 創さん、指導教員：上野祐樹助教）が「NHK 学生ロボコン 2016～ABU アジア・太平洋ロボコン代表選考会」のビデオ映像による二次審査を通過し、2009年の初出場以来、7年ぶり2回目の本戦出場を果たしました。学生たちは本戦にむけてエコロボットとハイブリッドロボットの製作・調整を進め、そして平成28年7月10日（日）に行われた本戦では、予選グループを戦いましたが惜しくも予選敗退となりました。

NHK 学生ロボコンとはアジア・太平洋地域の国と地域を代表する大学や高等専門学校や大学校のチームによるロボットの競技会「ABU アジア・太平洋ロボットコンテスト (ABU ロボコン)」の、日本代表を選考する大会です。この大会で優勝したチームは、日本代表として「ABU ロボコン」に参加できます。



他 1年生と2年生との学部交流会を開催

2年生が企画し、1年生を迎える新入学生部交流会を開催しました。工学部が設立されて、新しい1年生を迎えることで初めて「先輩」と「後輩」ができ、学生・教員にとって感慨深い企画となりました。

開催日は、ノーベル賞受賞者の天野浩教授の講演会日とし、1年生と2年生がともに講演会に参加した後、交流会というスケジュールを立てました。厚生棟の三つの食堂を利用し、2学年で600人の学生と教員が各学科に分かれ、パーティ形式の交流会を開催しました。

交流会ではもう一つのイベントとして、学部長賞の表彰式を行いました。表彰対象は、昨年度のコーオプ演習1で行ったグループワーク発表会の優秀者です。各学科のメンバーが全員集合し、優秀者の皆さんを知ってもらいたい良い機会となりました。

新入学生部交流会では、新1年生を迎えるため、2年生が中心となり企画を準備しました。自己紹介を通してお互いを知り合ったり、大学や学生生活についてのクイズを通して楽しく知る企画などにより、2年生と新1年生、そして教員と一緒に楽しむ時間をもち、工学部として一体感を持つことができました。



他 コーオプ実習に向けて学生と企業とのマッチングを実施

工学部では、企業等での約二ヶ月間のコーオプ実習（就業体験）が9月から開始されます。カリキュラムに組み込まれた必修のコーオプ教育が本格的に実施されるのは、日本ではこれが最初となります。この実習実施に向けて、これまで「コーオプ試行」により実施方法の検討や企業開拓を行ってきた結果、八王子、相模原地区等を中心に多くの企業に実習生を受け入れてもらえる運びとなり、約100社とコーオプ教育の契約締結を行いました。

9月から始まるコーオプ実習では73社の企業様に機械工学科の学生116人を受け入れて頂くことになっています（一部企業は複数受入）。第3期（9月23日～11月16日）58人、第4期（11月22日～1月30日）58人の2回に分かれて実習しますが、学生のやりたいことや適性、通勤時間などを踏まえつつ、かつ実習先企業様の希望等をマッチングさせる作業が終了しました。学生は、事前準備として行われている「コーオプ演習II」の中で、実習企業研究を行い、理解を深めるとともに、社会人基礎力等に磨きをかけています。

また、来年4月からは、電気電子工学科及び応用化学学科の学生を対象としたコーオプ実習が行われる予定です。機械工学科に加え、これら両学科の学生数を合わせると全体で約300名が企業に派遣されることとなりますので、今後とも、コーオプ実習の受け入れ企業の開拓を精力的に進めていき、学生にも企業にもメリットのあるコーオプ教育を推進していく予定です。



School of Design

デザイン学部

賞 研究活動『オオタノカケラ』がコニカミノルタ ソーシャルデザインアワード 2016 協賛社特別賞を受賞、またNHK BS プレミアム「TOKYO ディープ!」で紹介される

酒百宏一准教授の研究活動である『オオタノカケラ』が、「コニカミノルタ ソーシャルデザインアワード 2016」にて、協賛社特別賞（IDEE 賞）を受賞しました。

『オオタノカケラ』とは、大田区の不在となった町工場から提供していただいた道具を一つの資源として、フロッタージュという写しとりの描画技法によって参加者とともに作品をつくり、モノづくりの魅力と大田区の魅力を再発見し、これからのまちにつなげていく活動です。町工場減少という地域の社会問題に対する取り組みとして評価していただきました。

また、東京を一つのエリアごとに取り上げ、魅力を発信する情報番組「TOKYO ディープ!」（NHK BS プレミアム）で、蒲田が取り上げられ、この『オオタノカケラ』も紹介していただきました。

かつて活気があった町工場のまちの歴史の延長線上にある現在の取り組みとして紹介していただき、蒲田をよく知らない人も知っている人にも改めて蒲田を捉え直すいい機会になったのではないのでしょうか。

なお、この『オオタノカケラ』の活動は、デザイン学部の学生も活動運営のサポートを行っており、地域住民との関わりや、実際のワークショップの手伝いが実践的な学びとなっています。



他 学生インターンシップ・プログラム 2016 への参加活動がスタート

「財団法人世田谷トラストまちづくり」が支援している「学生インターンシップ・プログラム 2016」の参加活動が始まりました。

このプログラムは、世田谷区の多彩な区民活動グループの中から学生自身の関心に合った活動を選択し、主催者と協力して自主的に研修プログラムを企画・提案するもので、デザイン学部では伊藤英高准教授のサポートのもとで2012年から継続的に参加しています。他大学の学生との交流も盛んに行われ、子供を対象としたワークショップや公共施設のサポートなど、地域活動に直接触れることにより、環境問題やコミュニティ形成について実践的に学びます。

今年度は7人の学生が参加する予定で、7月中旬～9月末の間に活動し、10月に行われる合同報告会にて実施した内容や成果を発表します。



「夏休み子ども工房」開催
(写真は昨年度の活動の様子)



合同報告会

他 大田区公式 PR キャラクターの選考に参加

平成 29 年 3 月 15 日に区制 70 周年を迎える大田区の公式 PR キャラクター選考に伊藤丙雄教授が参加、一般公募で 930 点の候補から 2 回の選考委員会と多数の区民投票を経て正式に決定しました。大田区は羽田空港を有することもあり、2020 年のオリンピックへ向け東京の空の玄関として益々世界から注目され、必然的に今回の PR キャラクターにも注目が集まっています。さらにキャラクターデザインに加え、区のシンボルマークを決定、イメージソングも新たに制作し話題をさらいました。今後も多くのイベントやキャンペーン会場に登場、区内にとどまらず活躍が期待されています。

今回、デザイン学部が大田区の蒲田キャンパスにあることで、地域との連携で審査に協力することになりました。昨今、地域の活性化におけるキャラクターの必要性和、役割への機運も高まっており、加えて区民の想いを「わかりやすい形にする」というデザインによる解決に期待が持たれており、デザイン学部は今後も地域のために協力していきます。



大田区公式 PR キャラクター © 大田区



着 デザイン学部助教に大友邦子先生が着任

今年度 4 月 1 日よりデザイン学部助教に大友邦子先生（筑波大学大学院人間総合科学研究科感性認知脳科学専攻博士後期課程修了）が着任しました。

大友先生はこれまで繊維や紙などの素材を主としたパターンデザインや図案意匠制作に携わって来られ、特にファッションやインテリア領域に関わる分野でご活躍されています。学術研究では、視覚デザインにおける描線の線質の影響を主題として、複数国で感性科学の手法による調査研究に従事されてきました。

デザイン学部の授業では、ビジュアルデザイン領域のデザインスキル演習科目を担当します。画面構成力の土台となる講義を組み合わせながら、複合的なスキル習得となる授業を行っています。また大友先生は現在、国内工場と地場産業プロジェクトに取り組んでおり、将来的に学生の現場体験の機会としていく可能性についても考えておられます。



BankART1929_家具装飾デザイン

展 SICF PLAY16 において映像作品「DTM」が展示

平成 28 年 5 月、SICF PLAY16(スパイラル/東京・青山)において大西景太講師の映像作品「DTM」が展示されました。この展示会は例年 5 月に開催されている SICF(スパイラル・インディペンデント・クリエイターズ・フェスティバル)の関連イベントとして開催されたもので、過去の実績者から選ばれた作家による展示会です。

出品された作品は、映像技法を広く紹介する NHK・E テレの番組「テクネ 映像の教室」において「時間操作」をテーマに依頼を受け制作されたものです。

(※出演回は平成 28 年 7 月 8 日に再放送)

また、大西講師は同じく SICF 関連イベントとして 5 月 1 日に行われたトークイベントに出演しました。SICF への応募を考える学生を対象とし、受賞後の活

動などについて SICF 審査員である東京藝術大学岡本教授、横浜美術館学芸員木村氏らとのクロストークを行いました。



映像作品「DTM」

賞 昨年度卒業生による卒業研究作品が「日本ブックデザイン賞」で銀賞を受賞

本の装丁をテーマにした「日本ブックデザイン賞」のコンペティションに、末房志野准教授の指導のもと、デザイン学部の 3 年生と昨年度 4 年生が作品を応募しました。5 月締め切りで開催されたこの公募は課題図書の本のカバーだけをデザインする「ブックジャケット部門」と、本の内容から立案し、本全体の設計を行う「ブックデザイン部門」が設置されています。そのため 3 年生の応募は入門編としての指導による「ブックジャケット部門」とし、「ブックデザイン部門」は、本のコンセプトから自分で立案し、本の設計に落とし込まなければならない、4 年生の卒業制作で指導したより専門性の高い作品を応募することにしました。

審査の結果、昨年度卒業生の向後佳苗さんが「ブックデザイン部門」で銀賞を受賞、他 4 名入選。他 7 名の在学生が「ブックジャケット部門」で入選を果たしました。



入選作品・ブックデザイン部門
内山百穂さん、小柴咲耶さん(平成 27 年度卒業)



銀賞受賞作品・ブックデザイン部門 向後佳苗さん(平成 27 年度卒業)



入選作品・ブックジャケット部門 森美咲さん(3 年)

賞 第27回「理学療法ジャーナル」賞（奨励賞）を受賞



医学書院発行の理学療法ジャーナルに掲載された論文を対象に表彰される「理学療法ジャーナル」賞の第27回で、楠本泰士理学療法学科講師の論文が奨励賞を受賞しました。

この賞は、前年の1年間に「理学療法ジャーナル」誌に掲載された投稿論文の中から、優秀論文を編集委員会が顕彰し、理学療法士の研究活動を奨励するもので、平成27年度は、総投稿数120本のうち、10本が受賞対象となり、2論文が選ばれました。

受賞論文：「歩行可能な脳性麻痺患者における選択的股関節筋解離術後の股関節内外転筋力の変化—小児と成人における術後筋力変化の違い」

論文概要：「歩行機能改善のために脳性麻痺患者に行われる股関節筋解離術の術後筋力変化を小児と成人患者で検討した。小児患者では術前と比べ術後8週で股関節外転筋力が上昇する一方、成人患者では術前と同等の値に回復した。小児と成人患者で術後の回復過程に差があることを明らかにし、術後リハビリテーションの治療戦略について検討した。」

紹介 後藤正男教授らの研究が日本経済新聞で紹介される



平成28年2月29日発行の日本経済新聞に、後藤正男臨床検査学科教授らの食品の抗酸化物質をチップで容易に測定する研究が紹介されました。

これは、食品に含まれるビタミンやポリフェノールなどの抗酸化物質の強さを小型チップで図る手法を開発したもので、野菜や果物、健康食品の中の抗酸化物質の量などを評価するのに役立ち、2年後の実用化を目指しています。

他 平成27年度医療保健学部国家試験合格率について

医療保健学部の新卒者国家試験合格率は下記のとおりです。

国家資格	学科	受験者数	合格者数	合格率	全国平均※
看護師	看護学科	75名	72名	96%	89.4%
保健師	看護学科	21名	21名	100%	89.8%
理学療法士	理学療法学科	75名	68名	90.7%	74.1%
作業療法士	作業療法学科	41名	39名	95.1%	87.6%
臨床工学技士	臨床工学科	84名	68名	81%	72.5%

※新卒・既卒の全国平均
注) 作業療法学科、臨床工学科は秋卒業を含みます

掲 理学療法学科高橋ゼミ4年生らの論文が英文誌「JPTS」に掲載される

理学療法学科4年生の戸谷佳織（とやかおり）さん（2015年度卒業）を中心とした高橋ゼミのメンバーが投稿した論文が国際版英文誌「JPTS」に掲載されました。この論文は、卒業研究のプロジェクトとして作成されたもので、在学中に英文誌に論文が採用されることは、理学療法業界では非常にめずらしいことです。

【掲載雑誌名】

『JPTS (Journal of Physical Therapy Science) Vol.28 No.2』

【論文題目】

『Ankle positions and exercise intervals effect on the blood flow velocity in the common femoral vein during ankle pumping exercises (下腿パンピング運動中の総大腿静脈血流速度に及ぼす足部の位置と運動間隔の影響)』

【参加学生及び担当教員】

戸谷佳織、笹野健、高相朋美、西本哲平、藤本勇太（理学療法学科4年）
吉松竜貴助教、楠本泰士講師、日下さと美助教
高橋哲也教授・理学療法学科長

【研究概要】

深部静脈血栓症の予防策として推奨される下腿パンピング運動（つま先を上げ下げする運動）の効果が、姿勢や運動のペースによってどう変化するかを検証しました。上半身を起こして、4秒間隔で運動すると、ふくらはぎの血流速度が最も上昇したことから、下腿パンピング運動を行う際には姿勢と運動間隔も考慮すべきことが示されました。

英文誌「JPTS」、Journal of Physical Therapy Science (JPTS) は、理学療法に関する専門雑誌「理学療法科学」の国際版英文誌で、理学療法科学学会より発行さ

れている学術誌です。学術誌評価の指標となるインパクトファクターを有しており、これは理学療法関係の雑誌では非常に珍しいことです。



他 国際フリーラジカル学会誌「Redox Biology」に採録

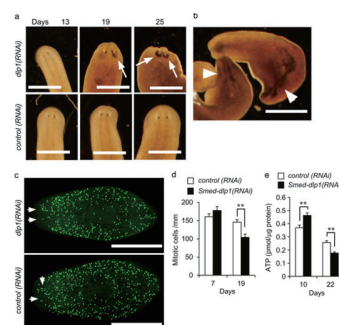
本学大学院バイオニクス専攻生（機能性RNA工学研究室）が研究をつないだ成果が、国際フリーラジカル学会誌 Redox Biology に採録されました。

再生モデル動物プラナリアは切断されても、その組織断片から完全な個体を再生します。しかし細胞の膜酸化に影響する遺伝子を発現抑制させたプラナリアは、再生不良になりました。一方あらかじめ抗酸化剤を給餌しておく、再生能が部分的に回復しました。本成果は「再生は細胞酸化の影響を受けや

すい」ことを示しており、再生のしくみ解明に貢献しました。

『Knockdown of the coenzyme Q synthesis gene Smed-dlp1 affects planarian regeneration and tissue homeostasis』

<http://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S221323171500155X>



KOUKADAI SNS

東京工科大学では、研究・教育活動などについて、教員自らがブログを通して情報を発信しています。また、様々なSNSサービス（twitter、Facebook、Youtube、LINE）を通して、教員・学生の受賞、学内活動等、本学の魅力を発信しています。ぜひ、興味のあるものをご覧ください。



応用生物学部
『応用生物の広場』



コンピュータサイエンス学部
『コンピュータサイエンス学部BLOG』



メディア学部
『Message from School of Media Science』



工学部応用化学科
『応用化学科BLOG』



工学部機械工学科
『機械工学科BLOG』



工学部電気電子工学科
『電気電子工学科BLOG』



デザイン学部
『Message from School of Design』



『工科女子オフィシャルBLOG』



YouTube
『東京工科大学公式チャンネル』



Facebook
『東京工科大学公式サイト』



twitter
『東京工科大学公式ツイッター』



LINE
『QRコードでLINEの友だちを追加しよう!』





平成27年度学位記授与式



平成 28 年 3 月 23 日に八王子キャンパス体育館にて、平成 27 年度東京工科大学学位記授与式を挙行政いたしました。

学部卒業生数 1,663 名、修士課程修了者数 110 名、博士課程修了者数 1 名、合計 1,774 名の卒業生が社会に向かって旅立ちました。

学部卒業生が入学した 2012 年は、東日本大震災の爪痕がまだ深く残る中、女子サッカー日本代表主将の澤穂希選手が日本人初

FIFA バロンドール 2011 を受賞、夏には東京スカイツリーが開業し、ロンドンオリンピックでは過去最多の金メダルを獲得、秋には京都大学の山中教授がノーベル医学生理学賞に輝くなど、様々な場面で様々な出来事が起きた 1 年でした。

卒業生たちの活躍の場は日本国内のみならず、世界へと広がっていくことは間違いありません。本学で身に付けた知識や技術

を組み合わせ、社会の中で自分の力をいかに発揮し、大いに活躍してくれることを願ってなりません。

毎年秋の学園祭では卒業生が多く集うホームcomingデーが開催されます。社会で活躍する卒業生たちの話を聞けることを、教職員一同楽しみにしています。





平成28年度入学式



東京工科大学は平成28年4月4日、見ごろの桜を濡らす雨が降りしきる中、八王子キャンパス体育館で、平成28年度入学式を挙行了しました。

様々な夢や希望を抱いた若人1,962名(学部学生1,842名、大学院生120名)が、新たな学生生活のスタートをここ、八王子の地で切りました。

「東京工科大学クロイツェル室内管弦楽

団」による演奏が流れる中、午前の部では、片柳鴻学園長・理事長、軽部学長、ご来賓の小宮山宏様(株式会社三菱総合研究所理事長)が祝辞にたち、これから始まる大学生活において、学問への取り組み、多くの友人を通じた経験を持ってほしいと、新入生たちを激励されました。

午後の部はガイダンスとなり、軽部学長より「大学で学ぶ目的と人生設計」をはじ

め、教務部長、就職部長、学生部長等から、これから始まる学生生活についての話がありました。

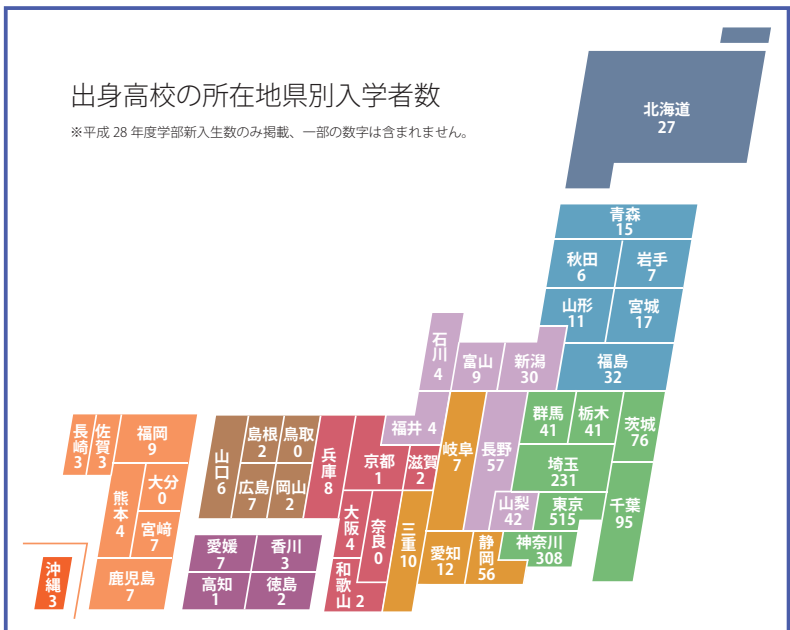
次頁には軽部学長の祝辞を全文掲載しております。本学が定める3つの教育方針やアクティブラーニングを始めとする教育方法について説明しておりますので、ぜひご一読ください。

学 部		1842	
応用生物学部	265		
コンピュータサイエンス学部	320		
メディア学部	348		
工学部機械工学科	93		
工学部電気電子工学科	106		
工学部応用化学科	86		
デザイン学部	216		
医療保健学部看護学科	118		
医療保健学部臨床工学科	87		
医療保健学部理学療法学科	80		
医療保健学部作業療法学科	39		
医療保健学部臨床検査学科	84		
学 部 計	1842		
大 学 院	修士課程	博士課程	
バイオニクス専攻	45	4	
コンピュータサイエンス専攻	34	0	
メディアサイエンス専攻	21	2	
アントレプレナー専攻	14	—	
	114	6	
総 計	1962		

※入試形態別入学者数詳細は、P29に掲載。

出身高校の所在地県別入学者数

※平成28年度学部新入生数のみ掲載、一部の数字は含まれません。



学 長 式 辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、ご両親をはじめとするご家族の皆さん、関係者の方々にお祝い申し上げます。

東京工科大学は創立から30年という大変若い大学ですが、建学の理念は昭和22年蒲田に片柳鴻理理事長が設立された創美学園の理念を受け継いでいます。1986年の開学以来、基本理念として「生活の質の向上と技術の発展に貢献する人材を育成する」を掲げています。

この基本理念を実現するために3つの具体的理念を定めています。(1) 実社会に役立つ専門の学理と技術の教育(2) 先端の研究を介した教育とその研究成果の社会還元(3) 理想的な教育と研究を行うための理想的な環境整備です。これらの理念は教室や実習室に掲げてあります。

これらの理念を一言で「実学主義」と言っています。この教育を行うために、本学は3つの教育方針、すなわちポリシーを定めています。

第1は、本学の入学者受入の方針(アドミッションポリシー)です。(1) 各専門分野の学修と研究に

強い意欲を持って挑み、自己成長して自分の将来の夢の実現を目指す人これは具体的理念で謳っている実践的な知識と技術・スキルの教育と研究に積極的に取り組む人を指しています。(2) 豊かな教養と人間性を育み、高い倫理性と創造性を持ち、持続可能な社会(サステナブル社会)の実現に貢献する人これは本学の教養学環の教員が担っていますが、国際的教養を身につけ、人間として成長して、最終的には社会人としての基礎能力をつけてサステナブル社会の実現に貢献する人です。このアドミッションポリシーはそれぞれ専門の異なる6学部や大学院でさらに具体的に定められています。皆様は本日このアドミッションポリシーによって入学を許可された人ということになります。

2番目は、本学の教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)です。教養教育は、人文社会系、外国語系、数理系、情報系、自然科学系、ウェルネス系、社会基礎系の7科目群から編成されていて、最終的には国際的な教養を身につけることとなります。教養は人生を歩む上での指針となる重要な知識です。また、専門科目は、専門基礎・共通科目群と専門科目群からなり、各学部、学科の専門分野の知識、先端技術やスキルを学び、これらの知識や技術を総合的に活用して問題を解決したり、新しい価値を創造したりして、実践的な応用力を身につけることがで

きます。最後は学位授与の方針(ディプロマポリシー)です。各学部、学科に所定期間在学し、それぞれの学部や学科の教育理念や教育目標に沿って設定した科目等を履修し、学士の卒業試験に合格することが学位授与の要件です。このためには各学部、学科が共通で行う教養科目と専門科目等の修得と、コミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を身につけているかどうかが学士の卒業試験に合格する基準となります。これらの能力は学修の成果(ラーニングアウトカム)として定められています。大学院についてもアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーが同様に定められています。

さて、東京工科大学は創設以降著しく発展してきました。本学が所属する片柳学園は、テレビ関連技術者、コンピュータ技術者から芸術分野の人材までの広範な人材育成に大変な実績のある日本一の専門学校であり、まさに産業界の人材ニーズを先取りする形で発展していると言えると思います。1986年の創立の時は日本の産業界はまだ発展期にあり、産業界の要請で工学部を作りました。

次に初めはマルチメディアと呼ばれましたが、新しいメディア時代の幕開けが予測され、この時代に必要な技術者を養成するためメディア学部を設立し、大成功しました。さらに、工学部を発展的に改組し

て、高度情報化社会に対応できる情報通信技術者を養成する目的でコンピュータサイエンス学部を、生命科学とバイオテクノロジーを応用した新しい産業を支える技術者の教育を目的にバイオニクス学部(後の応用生物学部)を作りました。

平成22年には本学園の発祥の地である蒲田キャンパスに進出し、高度先進医療に貢献できる人材育成のための医療保健学部と、実践的なデザイン能力を身につけた人材を育成する目的でデザイン学部を作りました。そして昨年、21世紀で期待されているサステナブル社会の実現に貢献するエンジニアを育成する工学部を設立致しました。こうして現在は6学部と教養学環を持つ理工系総合大学に発展しました。

本学の教養学環及び6つの学部で共通しているのは、コンピュータ教育です。実は、本学園は日本で初めて本格的にコンピュータ教育を始めた学園として知られています。八王子の4学部ではコンピュータが必携となっており、蒲田キャンパスの2学部でもコンピュータの教育と利用が不可欠となっています。現在はIoT、IoSについてインターネットを介してモノやサービスが結びついて、第4次産業革命が起こっていると言われていて、皆様は聞いたことがあると思いますが、世界経済フォーラムが毎年スイスのダボスで開催されています。

今年は新しい工学技術に注目が集まりました。ドイツなどが積極的に進めている「スマート工場」とはM2M(Machine to Machine)というネットワークで結ばれた製造装置同士が自律的に目的をもって作業をして製品を製造する)、EPR(Enterprise Resource Planning=企業経営の基本となる資源要素[ヒト・物材(モノ)・資金(カネ)・情報]を適切に分配し、有効活用する計画)、インターネットから得られるビッグデータの活用、PLM(Product Lifecycle Management 製品/商品のライフサイクルを考慮したマーケティングで製品の企画、設計、製造、販売、使用、再生のライフサイクル)/SCM(Supply Chain Management 原材料、部品の調達から製造、在庫管理、販売、配送のマネージメント)といった統合基幹業務システムを活用した工場です。いずれも情報通信技術の応用分野です。皆様は卒業するとこのような工場で働くことになるのです。特に現在は人工知能(AI)のブームが再来しており、コンピュータと人間の能力比較などが話題となっています。3月の中旬には韓国の棋の名人とグーグル傘下の英・ディープマインド社が開発したAI(アルファ碁)との戦いで、4勝1敗でAIが勝利したのは記憶に新しいことだと思えます。

2020年には自動運転するタクシーやバス、乗用車を実現する予定です。ここにもAI、センサー技

術とロボット技術が使われています。本学でもコンピュータサイエンス学部と医療保健学部が共同で医療IoTの研究を進めています。最近では反転授業という自宅でコンピュータや情報端末を利用して授業(eラーニング)を受け、大学に来てこの授業の内容について討論をしたり、宿題を発表したりする授業が教育効果を上げると注目されています。

本学のコンピュータサイエンス学部では、JMOCに加入し、このコンテンツを利用して反転授業を行い、成果を上げています。さらにはDeep learning(深層学習技術)と呼ばれるわれわれの脳の視覚情報処理をモデルとするAIで画像認識などで実績がありますが、先に述べたアルファ碁もこの応用例の一つでした。国立情報学研究所の新井紀子教授によれば、「AIはパターン認識や統計的処理は得意ですが、言葉の意味は理解できないため、論理と言語を駆使して高度に思考して表現する仕事は苦手である。」そうです。AIの話題は数え上げればきりがありません。例 東ロボくん、AIドクター、ロボカップ、AI小説AIやロボット技術の発展によって、10年から20年で現在ある職業の約半分は無くならないという予測があります。皆様には4年間でしっかりとICTを身につけていただきたいと思えます。

既に述べた色々な能力を身につけるために注目されているのがアクティブラーニングと呼ばれる教育

方法です。解りやすく言えば学生を中心にした双方向の授業や実習、演習で、教員は学生が理解しているかどうかを確認しながら授業や実習、演習を行います。特にPBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)と呼ばれる高度なアクティブラーニングはすでに述べたラーニングアウトカム(学修の成果)として本学が掲げている問題解決能力等を養うために有効で、1年次の授業からこれを導入していますので、皆様もすぐ経験することになると思えます。

大学に入学したら学ばなければならないことが多くありますので、時間を上手に使う習慣を身につけて下さい。全ての日に1日24時間が与えられていますが、これを計画的に使うかどうかで人生が大きく変わってきます。東京大学の名誉教授で科学雑誌の「ニュートン」の編集長を長く務めていた竹内均先生は、15分間活用法を提案していました。15分という時間はいくら忙しい人でも作る事ができます。実際に私も大いに活用しています。これを活用する習慣を身につけると、時間の有効利用のエキスパートになります。大学では授業を受けるだけではなく、実験や演習を通して覚える知識や技術・スキルが多いので、何事にも好奇心(興味)を持って臨んでもらいたいと思えます。授業の予習、復習、サークル活動など、勉学と学生生活の時間を効率的にマネジメントすることによって、これからの4年間

で皆様はそれぞれ見違えるように成長すると思えます。

皆様それぞれ目標に向かってこれから4年間、本学で色々なことに挑戦されることを期待しております。そして、社会や技術がどのように変化しても、これに柔軟に適応し、新たな分野を切り拓いていける能力を身につけていただきたいと思えます。色々な話をさせていただきましたが、以上をもって入学式の式辞とさせていただきます。本日は入学誠におめでとうございます。

平成28年4月4日
東京工科大学学長
軽部 征夫

REPORT

『学内合同企業セミナー』を開催



平成 28 年 3 月 8 日 (火) ~ 11 日 (金) の 4 日間、八王子キャンパス厚生棟において約 480 社の企業採用担当者をお招きして、学部 3 年生 (八王子・蒲田両キャンパス) および大学院修士 1 年生対象の『学内合同企業セミナー』を開催し、延べ約 2,500 名の学生が参加しました。

今年度も企業の採用意欲は依然として高く、参加した学生も会社概要やエントリー方法などを真剣な眼差しで聴いておりました。

REPORT

『八王子近隣地域学内合同企業説明会』を開催



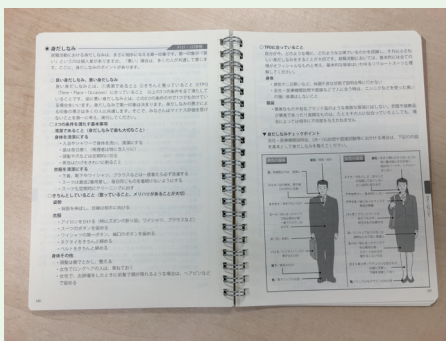
平成 28 年 6 月 3 日 (金) に八王子キャンパス厚生棟において、約 50 社の企業採用担当者をお招きして、『八王子近隣地域学内合同企業説明会』を開催しました。

本説明会は日本工学院八王子専門学校との共同企画で、地元企業への就職を視野に入れている学生を対象に毎年開催しております。

地元企業で貢献したい学生が両校合わせて約 190 名参加し、企業採用担当者からは自社の概要やエントリー方法、地元で働くことの意義などをお話いただきました。

REPORT

デザイン学部「キャリアデザイン」本格化



2017 年 3 月卒業予定者の就職活動は、採用試験開始時期が 2 ヶ月 (8 月→6 月) 前倒しになった影響と各企業の採用意欲が旺盛な為、6 月現在の内定状況は前年より良い状況になっています。

デザイン学部においては今年度よりキャリアデザインⅢ (前期) が本格的に開講されています。この科目は、担当教員・デザイン学部就職委員会・キャリアサポートセンターが一体となりプログラムを構築しました。

その中で「就職する、社会で生きていくとは何か」、「デザイン学部での学びはなぜ就職活動の強みになるのか」、「面接対策」、「自己分析」、「履歴書、エントリーシート対策」等を学び、夏のインターシップ参加の有効性についても伝え、多くの学生達が準備できるよう対策しています。

また、6 月には早くも「2017 Career Guidebook」を配布し就職活動に対する意識付けをするとともにインターシップから活用できるようにしています。

後期からは、キャリアデザインⅣが開講され、「SPI」「一般常識」など筆記試験対策が実施され、また、「業界セミナー」や新しい試みとして「キャリアポートフォリオ」作成を行います。これにより、スムーズな就職活動スタートが期待されています。



REPORT

東京工科大学同窓会 理事会・評議員会を開催



平成 27 年度 東京工科大学同窓会 理事会・評議員会を平成 27 年 2 月 20 日 (土) に八王子キャンパス本部棟にて開催しました。

田島会長以下 10 名の同窓会役員と、大学事務局学務課の担当職員 3 名が出席し、同窓会の運営や各種事業について報告および決議が行われました。同窓会の理事会・評議員会は、6 月と 2 月の毎年度 2 回行われており、2 月の重要な議題は次年度の予算案作成となっています。また、今回は以下の議題を中心に活発な議論が行われました。

- * 同窓会選挙 (平成 28 年度実施予定)
- * 役員と協同して同窓会をサポートする在学学生・卒業生の仕組みづくり
- * 在学学生の支援事業
 - 奨学金、卒業アルバム購入支援、卒業パーティー開催、記念品等
- * 同窓会主催イベント
 - ホームカミングデー (学園祭 [紅華祭・かまた祭] にて開催)
- * いろは就職相談会 (卒業生による在学学生の人生相談会)
- * 地方支部の立ち上げ会
- * 通信費削減を考慮した広報・広聴活動の活性化

同窓会理事会・評議員会では引き続き母校と連携して、同窓会の運営を進めてまいります。

平成 28 年度スポーツ大会を開催

平成 28 年 5 月 28 日（土）、総合グラウンドや体育館を持つ八王子キャンパスにおいて、平成 28 年度スポーツ大会が、盛大に開催されました。

スポーツ大会は、八王子キャンパス体育会が中心となって企画し、告知ポスターの作成や、エントリーシステム、また競技の運営等、八王子・蒲田両キャンパスのサークルが主体となって運営を行う、学生のイベントです。

競技はサッカーやテニス、バレー、バスケットなど 6 種目。八王子・蒲田の両キャンパスを合わせて、全 84 チームがエントリーし、456 名の参加となりました。

そのほか、競技の合間や、今回エントリーできなかった学生のため、体育館のボウリング場も開放。人気も高く、ゲーム開始から終了まで、プレイヤーが途切れることはありませんでした。



大 学 事 務 局 便

人事（採用、任命、昇格、退職、定年、組織改廃）

平成 28 年 2 月 1 日（人命第 00971 号）～平成 28 年 6 月 2 日（人命第 00983 号）までを以下に掲載。

1. 採用

平成 28 年 2 月 1 日付

職 位	所 属	氏 名
助教	応用生物学部	中村 真男

平成 28 年 4 月 1 日付

職 位	所 属	氏 名	
教授	工学部機械工学科	戸井 朗人	
	医療保健学部臨床工学科	森崎 隆幸	
准教授	メディア学部	榎 郁子	
講師	医療保健学部臨床工学科	荻野 稔	
	医療保健学部理学療法学科	楠本 泰士 飛山 義憲	
助教	メディア学部	藤堂 英樹	
	医療保健学部看護学科	安部 美恵子	
		尾形 珠恵	
		森 陽子	
	医療保健学部理学療法学科	三根 幸彌	
		西口 周	
		土屋 順子	
	デザイン学部	大友 邦子	
	助手	コンピュータサイエンス学部	相田 紗織
		メディア学部	加納 徹
医療保健学部看護学科		中澤 沙織	
		根本 藍	
		井上 舞美	
		松下 幸子	
		山本 貴子	
		菅野 太介	
応用生物学部		赤澤 竜太	
コンピュータサイエンス学部		安齋 恵一	
	中山 拓哉		
実験助手	メディア学部	阿部 雅樹	
	菅野 太介		
事務職員	八王子キャンパス学務課	風間 凌	

平成 28 年 6 月 1 日付

職 位	所 属	氏 名
助手	医療保健学部看護学科	飯村 知広

2. 任命

平成 28 年 4 月 1 日付

命	所 属	氏 名
片柳研究所長	応用生物学部教授	梶原 一人
工学部 コアオペレーター長	工学部教授	戸井 朗人
医療保健学部 理学療法学科勤務	医療保健学部教授	梅田 勝
		十島 純子
大学院コンピュータサイエンス専攻博士後期課程及び修士課程担当	工学部教授	高木 茂行
大学院コンピュータサイエンス専攻博士後期課程担当	工学部准教授	三田 俊裕

職 位	所 属	氏 名
大学院バイオニクス専攻修士課程担当	応用生物学部助教	中村 真男
大学院メディアサイエンス専攻修士課程担当	メディア学部助教	藤堂 英樹
		濱村 真理子
		鶴田 直也

2-1. 任命（大学事務局）

平成 28 年 4 月 1 日付

命	氏 名
事務局次長（八王子キャンパス業務課、情報サービス課担当）、研究協力課課長兼務 入試・アドミッションオフィスセンター課長	田中 祐輔
研究協力課参与	森 礼介
	上川路 徹
蒲田キャンパス学務課課長補佐	石田 親司
	鬼沢 悟
八王子キャンパス学務課課長補佐	田口 朗
入試・アドミッションオフィスセンター係長	稲田 美穂
	南 枝里
蒲田キャンパス業務課勤務	小澤 誠
八王子キャンパス業務課勤務	松田 真史
キャリアサポートセンター勤務	内田 伸

3. 昇格

平成 28 年 4 月 1 日付

職 位	所 属	氏 名
教授	コンピュータサイエンス学部准教授	生野 壮一郎
	メディア学部准教授	三上 浩司
	工学部応用化学学科准教授	原 憲二
	デザイン学部准教授	暮沢 剛巳
	教養学環准教授	神谷 明美 落合 浩太郎
助教	メディア学部助手	濱村 真理子 鶴田 直也
	医療保健学部看護学科助手	武本 亜紀
	医療保健学部作業療法学科助手	伊藤 公一

平成 28 年 6 月 1 日付

職 位	所 属	氏 名
教授	応用生物学部准教授	秋元 卓央
	医療保健学部看護学科准教授	加藤 輝
		妹尾 弘子

4. 退職

平成 28 年 3 月 30 日付

所 属	氏 名
工学部電気電子工学科教授	笹岡賢二郎

平成 28 年 3 月 31 日付

所 属	氏 名
コンピュータサイエンス学部教授	手塚 悟
医療保健学部看護学科教授	齋藤 茂子
医療保健学部臨床工学科教授	高野 康雄
医療保健学部理学療法学科教授	小松 泰喜
	鎌倉 恵子
教養学環教授	藤野 正克
医療保健学部作業療法学科准教授	大島 隆一郎
応用生物学部講師	田村 一郎
コンピュータサイエンス学部講師	大八木 智一
メディア学部講師	水谷 衣里
医療保健学部看護学科講師	遠藤 順子
医療保健学部理学療法学科講師	地神 裕史
	河西 理恵
コンピュータサイエンス学部助教	荻谷 光晴
	渡邊 紀文
メディア学部助教	石川 知一
	松橋 崇史
医療保健学部看護学科助教	塩満 芳子
	徳留 静代
医療保健学部臨床工学科助教	荻野 稔
医療保健学部理学療法学科助教	楠本 泰士
	飛山 義憲
	河方 けい
デザイン学部助教	高橋 庸平
医療保健学部看護学科助手	西川 さやか
応用生物学部実験助手	大島 裕太
コンピュータサイエンス学部実験助手	橋本 隆行
	今仁 順也
メディア学部実験助手	太田 晶
事務局蒲田キャンパス業務課	稲葉 京一
事務局八王子キャンパス業務課	網野 進
	宮本 和明
事務局キャリアサポートセンター	三谷 実

5. 定年

平成 28 年 4 月 1 日付

命	所 属	氏 名
事務嘱託職員	八王子キャンパス業務課	田中 友和

6. 組織改廃

平成 28 年 4 月 1 日付

新	旧
事務局 入試・アドミッションオフィスセンター	事務局入試課

外部研究費関連（科研費・助成金・受託研究・共同研究・奨学寄付金他）

1. 科学研究費補助金 & 学術研究助成基金助成金（新規）

研究種目	研究代表者	研究課題名
新学術領域研究（研究領域提案型）	原 賢二（工学部応用化学科教授）	精密に分子集積した表面上での特異な触媒反応場の創製
基盤研究（A）（海外学術調査）	江頭 靖幸（工学部応用化学科教授）	耐塩性蒸散促進樹種と耕作放棄農地を利用した塩害・湛水害対策用の植林システムの構築
基盤研究（C）（一般）	太田 高志（メディア学部准教授）	物理的なメタファーによる複数のモバイルデバイスの連携を利用したコンテンツデザイン
	石畑 宏明（コンピュータサイエンス学部教授）	コンピュータエンジニアリング系科目を対象にしたアジャイル講義環境の研究
	澤谷 由里子（コンピュータサイエンス学部教授）	未来創造型サービスデザイン方法論の構築および適用研究
	前田 憲寿（応用生物学部教授）	生活素材の白斑の発生メカニズムの解明と白斑発生を予測する評価方法の構築
	安藤 公彦（片柳研究所助教）	ディープラーニングを用いた教育ビッグデータ解析による要ケア学生の早期抽出の実践
	加柴 美里（教養学環准教授）	ミトコンドリア呼吸鎖超複合体中のコエンザイム Q10 量は加齢により低下するのか？
	吉武 久美子（医療保健学部看護学科准教授）	生命と健康に関わる倫理コンサルテーションの価値構造についての研究
	松永 信介（メディア学部准教授）	KABC-II を特性因子に加味した算数困難児への算術学習支援 AHS の構築
	矢野 和義（応用生物学部教授）	ナノ積層構造を有した機能性バイオチップによる高感度バイオセンシング法の開発
	須磨岡 淳（工学部応用化学科教授）	ペプチド核酸を利用した転写因子関連タンパク質の新規解析法の開発
	新海 健（工学部電気電子工学科教授）	次世代高電圧直送電を可能にする液中アークプラズマを用いた新しい遮断器の基礎研究
	榎本 みのり（医療保健学部臨床検査学科講師）	クロノタイプ別睡眠負債解消の機能解明
	森崎 隆幸（医療保健学部臨床工学科教授）	TGF β シグナル系に着目した大動脈疾患修飾因子の検討
荒添 美紀（医療保健学部看護学科准教授）	地域包括ケアでの多職種連携やチーム医療・介護に求められるヒューマンスキルの育成	
挑戦的萌芽研究	西尾 和之（工学部応用化学科教授）	濡れの制御にもとづく接着・剥離繰り返し界面の構築
	野澤 美江子（医療保健学部看護学科教授）	現代社会が求める生体看護にかかわる看護師のコンピテンシーモデルの創生
若手研究（B）	加藤 秀行（工学部電気電子工学科助教）	視床皮質系における情報の分解と統合、再構成に関する研究
	濱村 真理子（メディア学部助教）	音の大きさの感じ方における男女差の解明—音環境デザインの指針構築を目指して—
	三橋 郁（工学部機械工学科助教）	身体運動の挙動曲面設計論の確立とスキルレベル評価への適用と検証
	奥橋 佑基（医療保健学部臨床検査学科助教）	Notch シグナルによる白血病細胞増殖機構の解明
	大木 正隆（医療保健学部看護学科講師）	訪問看護師の夜間・休日オンコールが自己効力感、多職種・多施設連携に与える効果
	井口 紗織（医療保健学部看護学科助教）	災害を経験した被災市町村保健師の専門職者としての成長促進のための評価指標の開発
	飛山 義憲（医療保健学部理学療法学科講師）	人工膝関節置換術により骨量は変化するか？
	楠本 泰士（医療保健学部理学療法学科講師）	痙直型脳性麻痺患者における運動療法が末梢神経機能と歩行機能に与える影響
	上野 聡（工学部応用化学科講師）	脂肪酸カルボニル誘導体における β 位炭素-水素結合の不飽和結合への付加反応

2. 科学研究費補助金 & 学術研究助成基金助成金（継続）

研究種目	研究代表者	研究課題名
新学術領域研究（研究領域提案型）	森本 樹（工学部応用化学科講師）	二酸化炭素捕捉機能を付与した光触媒による二酸化炭素還元反応の高効率化
基盤研究（B）（海外学術調査）	福島 E. 文彦（工学部機械工学科教授）	ロボットシステムによる地雷探知および地雷・金属片判別技術の研究開発
基盤研究（B）（一般）	榎本 美香（メディア学部講師）	祭りの支度を通じた共同体〈心体知〉の集団学習メカニズムの解明
	野澤 美江子（医療保健学部看護学科教授）	がん生体医療の視点で取り組む「がん患者の妊娠性温存の意思決定支援モデル」の開発
基盤研究（C）（一般）	竹島 由里子（メディア学部准教授）	科学技術データにおける多変量データのための融合可視化環境の構築
	菊池 眞之（コンピュータサイエンス学部准教授）	3次元物体表面の脳内表現様式と表面内外の知覚特性の解明
	村上 勝彦（応用生物学部准教授）	異質データの相関解析による潜在的な概念モジュールの同定
	大山 恭弘（工学部機械工学科教授）	経験価値の見える化を用いた共創的ものづくり教育プラットフォームの開発と検証
	稲葉 竹俊（教養学環教授）	大規模かつ多様な学習データを活用した知的協調スクリプト実行システムの開発と評価
	秋元 卓央（応用生物学部教授）	薄膜干渉基板の蛍光増強効果を利用した高コントラスト蛍光顕微鏡の開発
	余 錦華（工学部機械工学科教授）	下肢関節障害に適合した健康増進電動カートの開発
	山本 順寛（応用生物学部教授）	生死を分けるリスクファクターの加齢による変化
	酒百 宏一（デザイン学部准教授）	アートをまちにひらくことによる新たな地域振興と芸術表現のかたち
	暮沢 剛巳（デザイン学部教授）	万博に見る芸術の政治性—紀元 2600 年博の考察と国際比較を中心に
	陳 淑梅（教養学環教授）	反転授業に基づいた中国語学習モデルの提案と学習支援システムの構築
	生野 壮一郎（コンピュータサイエンス学部教授）	次世代分散処理環境を前提とした完全メッシュレス法の開発と工学的応用
	上田 裕巳（コンピュータサイエンス学部教授）	超高速通信を可能にする経済的な光アクセスネットワーク構成法に関する研究
	浦瀬 太郎（応用生物学部教授）	排水処理における臭気物質の生成および低減と水環境中に残留する臭気
	下村 美文（医療保健学部臨床工学科講師）	酵母による分解と超音波霧化技術を併用した木質系廃棄バイオマスの高度有効活用
	十島 純子（医療保健学部理学療法学科教授）	蛍光イメージングによるエンドサイトーシス経路の網羅的解析
	妹尾 弘子（医療保健学部看護学科教授）	精神障害者の就労継続における同僚との関わりのプロセス
	近藤 邦雄（メディア学部教授）	映像分析に基づくライティング情報の体系化とその評価手法の提案
	苗村 潔（医療保健学部臨床工学科准教授）	硬膜外腔内視鏡下手術における癒着剥離用超音波デバイスの開発
	日向 奈恵（医療保健学部臨床工学科講師）	FFT 法と領域法を組み合わせた DNA ploidy 解析によるがん診断法の研究
	森本 樹（工学部応用化学科講師）	二酸化炭素の回収・濃縮および還元の高機能を併せ持つ金属錯体光触媒系の開発

研究種目	研究代表者	研究課題名
基盤研究 (C) (一般)	原 賢二 (工学部応用化学科教授)	高密度単分子層触媒のマイクロデバイス化
	山下 俊 (工学部応用化学科教授)	光自動振動型フォトメカニカル材料の開発
	太田 浩子 (医療保健学部看護学科講師)	シミュレーティッドリアリティ臨床実習体験による看護実践過程教育システム開発
	太田 祐子 (医療保健学部看護学科講師)	キャリア中期ジェネラリスト看護師の、物語としてのキャリア創出に関する研究
	森田 夏実 (医療保健学部看護学科教授)	患者参画による患者の病い体験を尊重できる医療者育成のためのウェブサイト構築と評価
挑戦的萌芽研究	松村 誠一郎 (デザイン学部准教授)	インタラクティブアート作品の展示における定量評価
	山崎 晶子 (メディア学部准教授)	外国人児童と日本人保育士の相互行為における身体性と言語的行為に関する社会学的研究
	酒井 弘美 (医療保健学部作業療法学科准教授)	片麻痺上肢に対するポータブル機能訓練機器の開発
	吉田 祥子 (医療保健学部臨床検査学科准教授)	液状化検体細胞診 (LBC) 検体を用いた子宮頸癌関連遺伝子異常の解析
若手研究 (B)	柴田 千尋 (コンピュータサイエンス学部助教)	Distributional 学習に対するノンパラメトリックベイズの適用と応用
	富沢 真也 (教養学環准教授)	非軸対称摂動に対するブラックホールの安定性解析
	大久保 友雅 (工学部機械工学科講師)	太陽励起レーザーのための高効率な太陽光キャビティの開発
	宇田 隆哉 (コンピュータサイエンス学部講師)	人間の心理特性と振る舞いを利用した弱者のための携帯端末向けセキュリティ技術の研究
	阿部 周司 (応用生物学部助教)	再凍結された冷凍すり身の有効利用および再凍結によるゲル形成能劣化抑制に関する研究
	寺岡 文博 (メディア学部助教)	連想インタラクションに基づく日本語彙学習システムの開発
	吉田 亘 (応用生物学部助教)	DNA メチル化反応を触媒するリボザイムの同定と領域特異的メチル化方法の開発
	来須 孝光 (応用生物学部助教)	タベート層のオートファジー制御によるイネ冷温障害打破の試み

3. 受託研究

研究者名	研究テーマ	期間	企業 (団体)
井上 亮文 (コンピュータサイエンス学部講師)	IoTセキュリティに関する調査研究	H28.6.1 ~ H29.5.31	日本プロセス株式会社
佐藤 淳 (応用生物学部教授)	ラクトフェリンに関する研究	H28.4.1 ~ H29.3.31	株式会社 NRL ファーマ
多田 雄一 (応用生物学部教授)	伊豆半島の野シバを主対象とした系統解析と塩適応性に関する研究	H28.4.1 ~ H29.3.31	公益財団法人新技術開発財団
原 賢二 (工学部応用化学科教授)	国立研究開発法人科学技術振興機構委託事業「メソポーラス有機シリカを利用した生体膜触媒に関する研究」	H27.4.1 ~ H30.3.31	株式会社豊田中央研究所

4. 共同研究

研究者名	研究テーマ	期間	企業 (団体)
後藤 正男 (医療保健学部臨床検査学科教授)	新規ヘルスケア機能性原料の探索と機能性付加とその応用	H28.4.1 ~ H30.3.31	恵比寿化学工業株式会社
本間 太郎 (応用生物学部助教)	植物由来の機能性食品素材の評価	H28.4.1 ~ H29.3.31	日農化学工業株式会社

5. 奨学寄付金

研究者名	企業 (団体)
遠藤 泰志 (応用生物学部教授)	公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団、一般財団法人旗影会
来須 孝光 (応用生物学部助教)	公益財団法人旭硝子財団
菅原 仁 (医療保健学部理学療法学科准教授)	花王株式会社 パーソナルヘルスケア研究所
高木 茂行 (工学部電気電子工学科教授)	東芝マテリアル株式会社
西尾 和之 (工学部応用化学科教授)	公益財団法人軽金属奨学会
古井 光明 (工学部機械工学科教授)	公益財団法人軽金属奨学会
正木 仁 (応用生物学部教授)	東海光学株式会社、テिका株式会社
山本 順寛 (応用生物学部教授)	ムサシノ製菓株式会社、株式会社エイ・アイ・シー、協和発酵バイオ株式会社

6. その他

研究者名	研究テーマ	期間	企業 (団体)
森崎 隆幸 (医療保健学部臨床検査学科教授)	難治性疾患実用化研究事業「マルファン症候群及び類縁疾患についての治療薬剤スクリーニングとモデル動物を用いた評価に関する調査研究」	H28.4.1 ~ H29.3.31	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
横田 恭子 (医療保健学部臨床検査学科教授)	感染症実用化研究事業 (エイズ対策実用化研究事業)「HIV 感染症治療を目標とした iPS 細胞由来 T 細胞による新規免疫細胞療法に関する研究」	H28.4.1 ~ H29.3.31	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

動物実験・遺伝子組換え実験実施状況

1. 動物実験実施状況

承認番号	実施学部	実験課題	実験目的	実験動物種
第 A15BS-001 号	応用生物学部	マウス洞毛器官培養での育毛剤の有効性評価	マウスから抽出した洞毛を器官培養して、洞毛の伸長を測定して育毛剤の有効性を評価する。	マウス (9 匹) H28 年 3 月実施分まで
第 A15BS-002 号	応用生物学部	B16 メラノーマ細胞の活性化実験	B16 メラノーマ細胞のメラニン産生能は継代を繰り返すことにより低下する。B16 メラノーマ細胞のメラニン産生能の高い細胞を得ることを目的として実施する。	マウス (1 匹) H28 年 3 月実施分まで
第 A16BS-001 号	応用生物学部	試料が有する発毛促進活性の解析	動物胎盤から抽出され加工されたプラセンタエキス、及び化学合成されたペプチド S1 について、これらが実験動物の発毛を促進する活性を示すか否かを調べる。これにより、脱毛症や皮膚疾病の治療や改善に有効な医薬品の開発に役立つ成果を得ることを目的とする。	マウス (24 匹) (H29 年までの計画数)

2. 遺伝子組換え実験実施状況

承認番号	実施学部	実験課題	実験目的
第 14BS-005 号	応用生物学部	細胞増殖因子とそのシグナル伝達に関連する分子の発現	皮膚や毛包等の細胞の、細胞増殖因子による制御を解明し、これを利用することを目的とする。
第 14BS-006 号	応用生物学部	組換え脱硫酸菌による微生物変換	放線菌に外来酵素遺伝子を共発現させることにより、有用物質を生産する。
第 15BS-001 号	応用生物学部	プラナリアの生育に関する遺伝子機能の解析	配列既知のプラナリア DNA を発現ベクターに連結し、プラナリアに超音波法または餌として導入することにより、プラナリア内で RNA を発現させ、その機能を解析する。
第 15HS-001 号	医療保健学部	子宮頸癌等疾患関連遺伝子異常の解析	子宮頸部擦過物等ヒト由来検体を用いて、癌化に関する遺伝子変異を網羅的に検出する。(液状化検体細胞診 (LBC) 検体を用いた研究については倫理委員会の承認を受けたものである。
第 15BS-001 号	応用生物学部	好塩性細菌の有するプラスミド解析	好塩性細菌が天然に保持するプラスミドの塩基配列を解析し、大腸菌とのシャトルベクターを構築する。
第 15BS-002 号	応用生物学部	ランダムペプチドライブラリーを用いたペプチドリガンドの創製	サイトカイン受容体などに結合する新規ペプチド配列を、ファージディスプレイランダムペプチドライブラリーから単離する。

学 事

1. 平成 27 年度学部卒業生・大学院修了者数

学 部	人数	
応用生物学部、バイオニクス学部	269	
コンピュータサイエンス学部	528	
メディア学部	440	
医療保健学部	看護学科	75
	臨床工学科	85
	理学療法学科	75
	作業療法学科	41
デザイン学部	150	
学 部 計	1663	
大学院バイオ・情報メディア研究科	人数	
バイオニクス専攻	48	
コンピュータサイエンス専攻	35	
メディアサイエンス専攻	19	
アントレプレナー専攻	8	
研 究 科 計	110	
合 計	1773	

2. 平成 27 年度就職状況

学 部	希望者	就職者	就職率	大学院	
応用生物学部	210	204	97.6%	45	
コンピュータサイエンス学部	454	427	94.1%	36	
メディア学部	409	372	91.0%	9	
医療保健学部	看護学科	70	70	100.0%	2
	臨床工学科	72	64	88.9%	1
	理学療法学科	73	72	98.6%	0
	作業療法学科	39	39	100.0%	0
デザイン学部	135	126	93.3%	2	
学 部 計	1462	1374	94.0%	95	
大学院バイオ・情報メディア研究科	希望者	就職者	就職率	大学院	
バイオニクス専攻	45	44	97.8%	1	
コンピュータサイエンス専攻	31	31	100.0%	0	
メディアサイエンス専攻	17	14	82.4%	1	
アントレプレナー専攻	4	4	100.0%	0	
研 究 科 計	97	93	95.9%	2	
合 計	1559	1467	94.1%	97	

3. 博士学位授与

氏 名	学 位	論文名	指導教員
シャハタアハマドムハシムドエー SHAHATA AHMAD MOHAMMADDEL A	博士 (工学)	Improvement of Membrane Bioreactor Operations for Color and Oil Removal from Wastewater.	浦瀬 太郎 教授

4. 平成 28 年度入学者数

学部学科名	AO 入試	推薦入試	一般入試	その他入試	小 計	編入学 (2 年次)	編入学 (3 年次)	合 計	
応 用 生 物 学 部	36	51	157	4	248	6	11	265	
コ ン ピ ュ ー タ サ イ エ ン ス 学 部	76	60	148	14	298	5	17	320	
メ デ ィ ア 学 部	81	82	158	8	329	10	9	348	
工 学 部	機 械 工 学 科	18	6	65	—	89	4	—	93
	電 気 電 子 工 学 科	7	5	89	—	101	5	—	106
	応 用 化 学 科	6	5	75	—	86	—	—	86
医 療 保 健 学 部	看 護 学 科	30	13	75	—	118	—	—	118
	臨 床 工 学 科	25	4	58	—	87	—	—	87
	理 学 療 法 学 科	23	3	54	—	80	—	—	80
	作 業 療 法 学 科	12	1	26	—	39	—	—	39
	臨 床 検 査 学 科	21	4	59	—	84	—	—	84
デ ザ イ ン 学 部	80	32	104	—	216	—	—	216	
学 部 計	415	266	1043	26	1775	30	37	1842	
大学院バイオ・情報メディア研究科	AO 入試	推薦入試	一般入試	その他入試	小 計	編入学 (2 年次)	編入学 (3 年次)	合 計	
修 士 課 程	バ イ オ ニ ク ス 専 攻	—	29	16	—	45	—	—	45
	コ ン ピ ュ ー タ サ イ エ ン ス 専 攻	—	23	11	—	34	—	—	34
	メ デ ィ ア サ イ エ ン ス 専 攻	—	6	15	—	21	—	—	21
	ア ン ト レ プ レ ナ ー 専 攻	—	0	14	—	14	—	—	14
博 士 後 期 課 程	バ イ オ ニ ク ス 専 攻	—	0	4	—	4	—	—	4
	コ ン ピ ュ ー タ サ イ エ ン ス 専 攻	—	—	—	—	—	—	—	—
	メ デ ィ ア サ イ エ ン ス 専 攻	—	0	2	—	2	—	—	2
研 究 科 計	—	58	62	—	120	—	—	120	
合 計	415	299	1155	26	1895	30	37	1962	

平成29年度入学者選抜日程表

試験日	合格発表日	学部・学科	入試区分
6月26日(日)	7月1日(金)	応用生物学部、コンピュータサイエンス学部 メディア学部、工学部*、デザイン学部 *工学部は2年次編入のみ	・編入学指定校推薦(専門学校)
9月10日(土)	9月16日(金)	大学院全専攻	・A日程(修士課程)
10月1日(土)	10月14日(金)	応用生物学部、コンピュータサイエンス学部 メディア学部、工学部、デザイン学部	・AO入試
10月2日(日)		医療保健学部	
11月12日(土)	11月25日(金)	応用生物学部、コンピュータサイエンス学部 メディア学部、工学部*	・編入学一般選抜 ・編入学指定校推薦<工学部・応用生物学部を除く>(高等専門学校)
11月26日(土) 又は 11月27日(日)	12月16日(金)	コンピュータサイエンス学部 メディア学部、工学部	・編入学<工学部応用化学科を除く>(MJHeP)
11月19日(土)	11月25日(金)	デザイン学部	・指定校推薦(高等学校・専門学校) ・外国人留学生特別推薦
		医療保健学部	・指定校推薦(高等学校・専門学校) ・公募推薦 ・外国人留学生特別推薦
11月20日(日)		応用生物学部、コンピュータサイエンス学部 メディア学部、工学部	・指定校推薦(高等学校・専門学校) ・外国人留学生特別推薦<工学部を除く>
1月8日(日)	1月12日(木)	応用生物学部、コンピュータサイエンス学部 メディア学部	・外国人留学生試験 ・外国人留学生指定校推薦(附属日本語学校)
1月14日(土) 1月15日(日)	2月9日(木)	全学部	・センター利用試験前期 注:本学での個別学力試験は実施しない
1月28日(土) 1月29日(日) 1月30日(月) 1月31日(火)			・一般入試A日程
1月14日(土) 1月15日(日)			・センター利用試験後期 注:本学での個別学力試験は実施しない
2月5日(日)			・B日程入試(修士課程及び博士後期課程)
2月23日(木)	3月6日(月)	全学部	・一般入試B日程

平成28年度後期学内行事予定

行事予定	日程
前期末試験	7月29日(金)～8月8日(月) (土曜日含む、最終日は予備日)
夏季休業	8月9日(火)～9月20日(火)
再試験	9月6日(火)～9月9日(金)
成績表(前期)交付	9月中旬
就職関連行事(3年生)	9月21日(水)
後期授業開始	9月23日(金)
履修登録	9月30日(金)～10月5日(水)
履修登録確認・修正	10月6日(木)
秋期保護者懇談会	10月8日(土)
祝日授業開講★	10月10日(月)
紅華祭(学園祭)	10月22日(土)～23日(日)
(紅華祭に伴う休講:準備及び後片付けのため、全学部・全学年の開講科目について、10月21日(金)、24日(月)を休講とする)	
祝日授業開講★	11月3日(木)
祝日授業開講★	11月23日(水)
AO入試合格者入学準備ガイダンス	11月26日(土)
補講★	12月10日(土)
指定校推薦・編入学入試合格者入学準備ガイダンス	12月11日(日)
後期末試験時間割発表	12月中旬
冬期休業	12月27日(火)～1月5日(木)
補講★	1月7日(土)
授業開講予備日★ (自然災害等で休講となった場合の振替日)	1月21日(土)
授業修了	1月23日(月)
後期末試験	1月24日(火)～2月4日(土) 最終日は予備日
後期再試験	2月22日(水)～2月27日(月)
学位記授与式	3月23日(木)

★:要注意(土曜日・祝日開講または振替授業実施日)

行事予定	日程
前期末試験	8月1日(月)～8月9日(火)
夏季休業	8月10日(水)～9月8日(木)
前期再試験	8月29日(月)～9月1日(木)
成績表(前期)交付	9月中旬
授業開始	9月9日(金)
祝日授業開講★	9月19日(月)
祝日授業開講★	9月22日(木)
医療保健学部卒業論文審査	10月(予定)
蒲田キャンパス 地下多目的ホール完成記念講演(予定)★	10月9日(日)
祝日授業開講★	10月10日(月)
秋期保護者懇談会	10月15日(土)
かまた祭(学園祭)	10月29日(土)～30日(日)
(かまた祭に伴う休講:準備及び後片付けのため、全学部・全学年の開講科目について、10月28日(金)、31日(月)、11月1日(火)を休講とする)	
後期末試験時間割発表	12月9日(金)
入学準備ガイダンス(推薦入試合格者対象)★	12月18日(日)
冬期休業	12月28日(水)～1月5日(木)
補講	1月10日(火)
授業終了	1月12日(木)
補講	1月13日(金)
授業開講予備日★ (自然災害等で休講となった場合の振替日)	1月14日(土)
後期末試験	1月16日(月)～1月25日(水)
後期再試験	2月7日(火)～2月10日(金)
学位記授与式	3月23日(木)

★:要注意(土曜日・祝日開講または振替授業実施日)

決算・予算

1. 平成 27 年度決算

① 資金収支計算書

科目		金額
収入の部	学生生徒等納付金収入	11,785,196,000
	手数料収入	283,829,264
	寄付金収入	25,212,249
	補助金収入	275,447,326
	資産売却収入	991,200,000
	付随事業・収益事業収入	486,278,243
	受取利息・配当金収入	8,620,952
	雑収入	204,417,392
	借入金等収入	0
	前受金収入	3,181,264,006
	その他の収入	173,294,357
	資金収入調整勘定	△ 3,263,747,124
	前年度繰越支払資金	54,102,212,759
	収入の部合計	68,253,225,424
支出の部	人件費支出	4,465,622,695
	教育研究経費支出	2,110,436,433
	管理経費支出	1,391,062,110
	借入金等利息支出	0
	借入金等返済支出	0
	施設関係支出	219,740,899
	設備関係支出	775,596,548
	資産運用支出	0
	その他の支出	608,879,570
	資金支出調整勘定	△ 786,722,666
	翌年度繰越支払資金	59,468,609,835
	支出の部合計	68,253,225,424

② 事業活動収支計算書

科目		金額	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	11,785,196,000
		手数料	283,829,264
		寄付金	25,212,249
		経常費等補助金	275,447,326
		付随事業収入	486,278,243
		雑収入	204,417,392
		教育活動収入計	13,060,380,474
	事業活動支出の部	人件費	4,602,805,656
		教育研究経費	3,548,395,842
		管理経費	1,694,546,784
		徴収不能額等	4,887,000
		教育活動支出計	9,850,635,282
		教育活動収支差額	3,209,745,192
		受取利息・配当金	8,620,952
教育活動外収支	事業活動収入の部	その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	8,620,952
	事業活動支出の部	借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	0
教育活動外支出計	0		
教育活動外収支差額	8,620,952		
特別収支	事業活動収入の部	経常収支差額	3,218,366,144
		資産売却差額	0
	事業活動支出の部	その他の特別収入	35,814,821
		特別収入計	35,814,821
		資産処分差額	12,962,510
		その他の特別支出	0
		特別支出計	12,962,510
特別収支差額	22,852,311		
基本金組入前当年度収支差額	3,241,218,455		
基本金組入額合計	△ 419,200,204		
当年度収支差額	2,822,018,251		
前年度繰越収支差額	8,649,726,182		
基本金取崩額	0		
翌年度繰越収支差額	11,471,744,433		
(参考)			
事業活動収入計	13,104,816,247		
事業活動支出計	9,863,597,792		

2. 平成 28 年度予算

① 資金収支予算書

科目		金額
収入の部	学生生徒等納付金収入	11,508,596,000
	手数料収入	276,381,000
	寄付金収入	22,000,000
	補助金収入	288,289,000
	資産売却収入	39,478,000
	付随事業・収益事業収入	491,549,000
	受取利息・配当金収入	2,480,000
	雑収入	199,645,000
	借入金等収入	0
	前受金収入	3,616,498,000
	その他の収入	114,897,424
	資金収入調整勘定	△ 3,181,264,006
	前年度繰越支払資金	59,468,609,835
	収入の部合計	72,847,159,253
支出の部	人件費支出	4,550,406,000
	教育研究経費支出	2,144,974,000
	管理経費支出	1,469,307,000
	借入金等利息支出	0
	借入金等返済支出	0
	施設関係支出	215,976,000
	設備関係支出	247,810,000
	資産運用支出	0
	その他の支出	742,094,071
	予備費	0
	資金支出調整勘定	△ 646,487,103
	翌年度繰越支払資金	64,123,079,285
	支出の部合計	72,847,159,253

② 事業活動収支計算書

科目		金額	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	11,508,596,000
		手数料	276,381,000
		寄付金	22,000,000
		経常費等補助金	288,289,000
		付随事業収入	491,549,000
		雑収入	199,645,000
		教育活動収入計	12,786,460,000
	事業活動支出の部	人件費	4,626,406,000
		教育研究経費	3,579,166,000
		管理経費	1,778,921,000
		徴収不能額等	0
		教育活動支出計	9,984,493,000
		教育活動収支差額	2,801,967,000
		受取利息・配当金	2,480,000
教育活動外収支	事業活動収入の部	その他の教育活動外収入	0
		教育活動外収入計	2,480,000
	事業活動支出の部	借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	0
教育活動外支出計	0		
教育活動外収支差額	2,480,000		
特別収支	事業活動収入の部	経常収支差額	2,804,447,000
		資産売却差額	0
	事業活動支出の部	その他の特別収入	0
		特別収入計	0
		資産処分差額	0
		その他の特別支出	0
		特別支出計	0
特別収支差額	0		
予備費	0		
基本金組入前当年度収支差額	2,804,447,000		
基本金組入額合計	△ 463,787,000		
当年度収支差額	2,340,660,000		
前年度繰越収支差額	11,471,744,433		
基本金取崩額	0		
翌年度繰越収支差額	13,812,404,433		
(参考)			
事業活動収入計	12,788,940,000		
事業活動支出計	9,984,493,000		



東京工科大学報 64

発行月 平成 28 年 8 月
発行 学校法人片柳学園 東京工科大学
■八王子キャンパス
〒 192-0982 東京都八王子市片倉町 1404-1
☎ 042-637-2111 (代)
■蒲田キャンパス
〒 144-8535 東京都大田区西蒲田 5-23-22
☎ 03-6424-2111 (代)
✉ jm-hcsyomu@stf.teu.ac.jp
編集 東京工科大学情報公開委員会
東京工科大学事務局業務課
制作 東京工科大学事務局業務課

—編集後記—

裏面に掲載した写真は、Campus Scenes に登場した「日本庭園」内に設置されている小さな橋「鴻稜橋」です。

八王子キャンパスの日本庭園は、学生、教職員をはじめ、キャンパスに来校する様々な方々に四季折々を感じさせてくれる八王子キャンパス憩いの場所となっていますが、この「鴻稜橋」の存在を知っている人はたしてどのくらいいるでしょうか。

本部棟から洋芝の絨毯を抜け、池にかかった鴻稜橋を渡り、庭園の中央を横断するように作られた道。長い時が経ったことを感じさせる大きく育った木々や花達の間を抜け、美術館「鴻稜苑」へとさらに進んでいく。すると、長い時を経て現在の形となった庭園から、30年前にデザインした片柳鴻理理事長が込めた想いを少しだけ感じる事ができたような気がしました。

八王子キャンパスには様々な芸術作品が散りばめられています。授業のために移動する建物の間を抜けるとき、ふと、周りを見渡してみてください。30年間、学生達を見続けてきた芸術作品達の存在に、ふと、気がつくかもしれない、そんなキャンパスライフも、この自然あふれるキャンパスの楽しみの一つかもしれません。